Canon

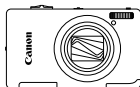
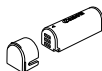
IXY 51S

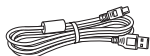
カメラユーザーガイド

- ご使用前に必ず本書および、本書の「安全上のご注意」をお読みください。
- 本書をよく読んで、正しくお使いください。
- 将来いつでも使用できるように大切に保管してください。

日本語

カメラと付属品の確認

お使いになる前に、次のものが入っていることを確認してください。
万が一、不足のものがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ

バッテリーパック NB-9L
（端子カバーつき）

バッテリーチャージャー
CB-2LB

インターフェースケーブル
IFC-400PCU

リストストラップ
WS-DC10

カメラユーザーガイド
（本書）

DIGITAL CAMERA
Solution Disk

保証書

サポートガイド

電子マニュアルについて

CD-ROM内の「Readme」フォルダに、次の電子マニュアル（PDF形式）が入っています。ソフトウェアをインストールすると、電子マニュアルがパソコン内にコピーされ、デスクトップのショートカットアイコンをクリックして参照できるようになります。

- **ソフトウェアガイド**
  付属のソフトウェアを使うときにお読みください。

- メモリーカードは付属されていません（p.17）。
- 電子マニュアル（PDF形式）をご覧になるには、Adobe Readerが必要です。

はじめにお読みください

- 必ず事前に試し撮りをし、撮影後は画像を再生して画像が正常に記録されていることを確認してください。万が一カメラやメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの取り込みができなかったときの記録内容の補償については、ご容赦ください。
- このカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限していることがありますのでご注意ください。
- このカメラの保証書は国内に限り有効です。万が一、海外旅行先で故障や不具合が生じたときは、帰国したあと、別紙の修理受付センターへご相談ください。
- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。
- 液晶モニターに保護シートが貼られているときは、はがしてからご使用ください。
- このカメラは、長い時間お使いになっていると、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。

このガイドの記載について

- カメラのボタンやスイッチは、ボタンやスイッチに表記されている絵文字を使って示しています。
- 撮影モード、画面に表示される絵文字や文言は、[ ] つきで示しています。
- (!)：注意事項を示しています。
- ?：困ったときに手助けとなる内容を示しています。
- 💡：上手に使うためのヒントを示しています。
- ✏：補足説明を示しています。
- (p.xx)：参照ページを示しています。xxはページ数を示しています。
- すべての機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- このカメラで使えるメモリーカードのことを「カード」と表記しています。

やりたいこと目次

撮　る

見る

動画を撮る／見る

印刷する

残す

その他

目次

6 動画のいろいろな機能を使ってみよう 103

7 いろいろな再生と編集機能を使ってみよう 111

安全上のご注意

- ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、製品を正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
- 別売アクセサリーをお持ちのときは、付属の使用説明書もあわせてご確認ください。

警告 死亡または重傷を負う可能性がある内容です。

- **ストロボを人の目に近づけて発光しない。**

視力障害の原因となります。特に、乳幼児を撮影するときは1 m以上離れてください。

- **お子様や幼児の手の届くところで保管しない。**

ストラップ：誤って首に巻き付けると、窒息することがあります。

- **指定外の電源は使わない。**
- **分解、改造したり、加熱しない。**
- **落とすなどして強い衝撃を与えない。**
- **落下などで破損したときは、内部には触れない。**
- **煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。**
- **アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。**
- **水や海水などの液体で濡らさない。**
- **内部に液体や異物などを入れない。**

感電、火災の原因となります。
万が一、液体や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、その後必ずバッテリーを取り出してください。
バッテリーチャージャーが液体で濡れたときは、コンセントから抜いて、お買い上げになった販売店または修理受付センターにご相談ください。

- **指定外のバッテリーは使わない。**
- **バッテリーは火に近づけたり、火の中に投げ込まない。**
- **電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントにたまったホコリや汚れを乾いた布で拭き取る。**
- **濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。**
- **コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない。また、電源プラグが傷んでいたり、差し込みが不十分なまま使わない。**
- **電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを付着させない。**

バッテリーが破裂や液漏れし、けがや周囲を汚す原因となったり、火災、感電の原因となることがあります。万が一、電解液が漏れ、衣服、皮膚、目、口についたときは、ただちに洗い流してください。

- **カメラの使用が禁止されている場所では、カメラの電源を切る。**

カメラが発生する電磁波により、計器や機器に影響を与える恐れがあります。特に飛行機内や医療機関など、電子機器の使用が制限されている場所では十分注意してください。

- **付属のCD-ROMは、CD-ROM対応ドライブ以外では絶対に再生しない。**

音楽用CDプレーヤーで再生してヘッドフォンなどを使用したときは、大音量により聴力障害の原因となります。また、音楽用CDプレーヤーで使用したときは、スピーカーなどの破損の原因となります。

⚠ 注意　傷害を負う可能性がある内容です。

- **ストラップで下げているときは、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。**
- **レンズを強く押したり、ぶつけたりしない。**

けがやカメラの故障の原因となることがあります。

- **ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。**

やけどや故障の原因となることがあります。

- **次の場所で使用・保管しない。**
  - **直射日光のあたるところ**
  - **40度を超える高温になるところ**
  - **湿気やホコリの多いところ**

バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、感電、やけど、けが、火災の原因となることがあります。

カメラやバッテリーチャージャーが熱により変形することがあります。

- **長時間画面を見ていると、不快感を感じることがありますのでご注意ください。**

注意　物的損害を負う可能性がある内容です。

- **カメラを強い光源（晴天時の太陽など）に向けない。**

撮像素子が損傷することがあります。

- **砂浜や風の強い場所で使うときは、カメラの内部にホコリや砂が入らないようにする。**

故障の原因となることがあります。

- **ストロボに汚れやホコリなどの異物がついたときは、綿棒などで取り除く。**

そのまま発光させると、発光熱により、付着物の発煙や故障の原因となることがあります。

- **使用しないときは、カメラからバッテリーを取り出して保管する。**

カメラにバッテリーを入れたままにしておくと、液漏れにより故障の原因となることがあります。

- **バッテリーを廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。**

他の金属と接触すると、発火、破裂の原因となることがあります。

- **バッテリーチャージャーは、使用しないときや充電が終わったときは、コンセントから外す。**
- **布などをかけたまま充電しない。**

長時間接続しておくと、発熱、変形して火災の原因となることがあります。

- **ペットの近くにバッテリーを置かない。**

バッテリーに噛みついたとき、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、故障や火災の原因となることがあります。

- **ズボンのポケットにカメラを入れたまま椅子などに座らない。**

液晶モニターの破損の原因となります。

- **かばんにカメラを入れるときは、硬いものが液晶モニターにあたらないようにする。**
- **ストラップにアクセサリーをつけない。**

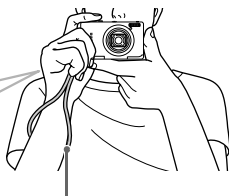
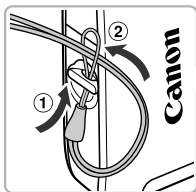
硬いものが液晶モニターにあたると破損の原因になります。

1

さっそくカメラを使ってみよう

この章では、撮影前の準備、AUTO（オート）モードでの撮影、画像を見る、消すの一連の操作について説明しています。また章の後半では、動画を撮る、見る方法や、パソコンに画像を取り込む方法について説明しています。

ストラップを取り付ける／カメラを構える

- 付属のストラップをカメラに取り付け、撮影時にはカメラを落とさないように、手首に通してお使いください。
- 撮影するときは、脇をしめてカメラが動かないようにしっかりと構え、ストロボや画面に指がかからないようにしてください。

画面をタッチして操作する

このカメラの画面はタッチパネルになっているため、指で画面をタッチ（触れて）して直感的に操作できます。

タッチ

画面を指で押して離す

- いろいろな機能の設定や、撮影するときなどに使います。

ドラッグ

指を画面に触れたまま移動する

- 再生モードで、次の画像に表示を切り換えるときや、拡大表示する範囲を変えるときなどに使います。

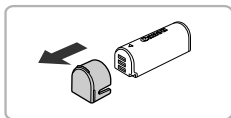
タッチパネルは圧力を感知するタイプなので、保護シートを貼るとタッチ操作が感知されにくいことがあります。

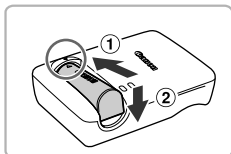
うまく操作できないときは？

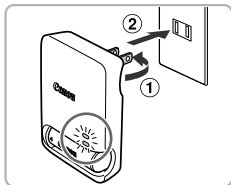
指でタッチしにくいときは、ストラップについている留め具を使って操作します。付属の留め具以外のとがったもの（鉛筆やペンなど）で操作しないでください。
なお、思うように項目やボタンを選べないときは、タッチ位置の調整を行ってください（p.161）。

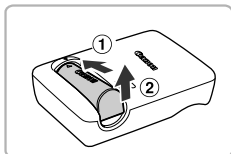
充電する

カメラに付属のバッテリーチャージャー（充電器）を使って、バッテリーを充電します。お買い上げ時はバッテリーが充電されていませんので、必ず充電してからお使いください。

1 カバーを外す

2 バッテリーを取り付ける

- バッテリーとバッテリーチャージャーの▲をあわせて、①の方向へ押しながら、②の方向へ取り付けます。

3 充電する

- プラグを①の方向へおこして、②コンセントに差し込みます。
- ▶ 充電がはじまると、CHARGEランプが点灯します。
- ▶ 充電は、約1時間50分で完了し、FULLランプが点灯します。

4 バッテリーを取り外す

- バッテリーチャージャーをコンセントから抜き、①の方向へ押しながら、②の方向へ取り外します。

バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24時間以上連続して充電しないでください。

撮影できる枚数と時間

撮影枚数＊1		約170枚
動画撮影時間＊2		約30分
	連続時＊3	約50分
再生時間		約4時間

＊1 撮影枚数は、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
＊2 カメラの初期状態で、撮影/一時停止、電源の入/切、ズームなどの操作をしたときの時間です。
＊3「一度に撮影できる時間まで撮影」、「自動停止」を繰り返したときの時間です。

- 撮影枚数や撮影時間は、撮影条件により少なくなることがあります。

バッテリーの残量表示

バッテリーの状態は、画面にマークやメッセージで表示されます。

画面表示	内容
	十分です。
	少し減っていますが、まだ使えます。
（赤く点滅）	残量が少なくなってきました。充電してください。
[バッテリーを交換してください]	残量がありません。すぐに充電してください。

こんなときは？

- バッテリーがふくらむ
  バッテリー特性のため安全上は問題ありません。ただし、バッテリーがふくらむことでカメラに入らなくなったときは、別紙の修理受付センターへご相談ください。
- 充電したのにすぐ使えなくなる
  バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

バッテリーとバッテリーチャージャーの上手な使いかた

- 充電は使う前日か当日にする
  充電したバッテリーは、使わなくても自然放電によって少しずつ残量が減っていきます。
- 長期間保管する
  バッテリーを使い切ってカメラから取り出し、カバーをつけて保管してください。バッテリーを使い切らずに長期間（1年くらい）保管すると、バッテリー寿命を縮めたり、性能が劣化することがあります。
- バッテリーチャージャーを海外で使う
  バッテリーチャージャーは、AC 100 – 240 V 50/60 Hzの地域で使えます。プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。海外旅行用の電子式変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

使えるカード（市販品）を確認する

以下のカードが容量に制限なくお使いになれます。

- SD（エスディー）メモリーカード*
- SDHC（エスディーエイチシー）メモリーカード*
- SDXC（エスディーエックスシー）メモリーカード SDXC *
- Eye-Fi（アイファイ）カード

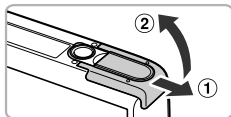
* SD規格に準拠したカードです。カードによっては、正しく動作しないことがあります。

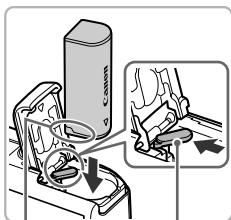
お使いのOSのバージョンによっては、SDXCメモリーカードをカードリーダー（市販品）に差しても、認識されないことがあります。必ずOSの対応状況を事前にご確認ください。

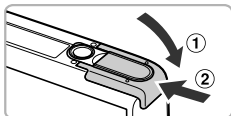
Eye-Fiカードについて

本製品は、Eye-Fiカードの機能（無線送信を含む）を保証するものではありません。カードに関する不具合は、カードメーカーにお問いあわせください。また、Eye-Fiカードの使用には、多くの国や地域で認可が必要であり、認可を取得していないものの使用は認められていません。使用が認められているかご不明の場合は、カードメーカーにご確認ください。

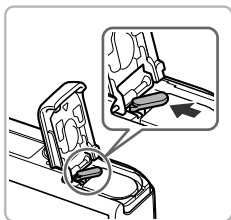
バッテリーを入れる

付属のバッテリーを入れます。

1 ふたを開ける

- ①の方向にふたを動かして、②の方向へふたを開けます。

2 バッテリーを入れる

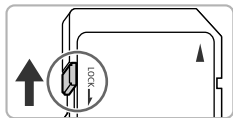
- バッテリーを図の向きにして、バッテリーロックを矢印の方向へ動かし、「カチッ」と音がしてロックされるまで差し込みます。
- 間違った向きでバッテリーを入れるとロックされません。必ずバッテリーがロックされる正しい向きで入れてください。

3 ふたを閉める

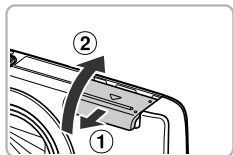
- ふたを①の方向へたおして押さえたまま、②の方向へ「カチッ」と音がするまで動かして閉めます。

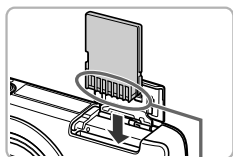
バッテリーを取り出す

- ふたを開け、バッテリーロックを矢印の方向に動かします。

▶ バッテリーが出てきます。

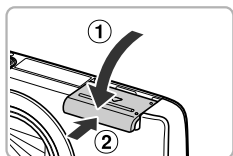
カードを入れる

カード（市販品）を入れます。

1 カードのスイッチを確認する

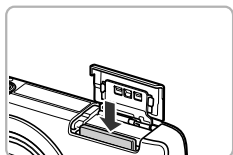
- スイッチがあるカードでは、スイッチが下（「LOCK」側）になっていると撮影できません。「カチッ」と音がするまでスイッチを上に動かします。

2 ふたを開ける

- ①の方向にふたを動かして、②の方向へ開けます。

端子部

3 カードを入れる

- カードを図の向きにして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。
- カードは、必ず正しい向きで入れてください。間違った向きで入れると、カメラの故障の原因となります。

4 ふたを閉める

- ふたを①の方向へたおして押さえたまま、②の方向へ「カチッ」と音がするまで動かして閉めます。

カードを取り出す

- ふたを開け、「カチッ」と音がするまでカードを押し込み、ゆっくり指を離します。
- ▶ カードが出てきます。

[カードがロックされています] が表示された

スイッチのあるカードでは、スイッチが「LOCK」側になっていると、画面に[カードがロックされています]と表示され、撮影することや撮影した画像を消すことができません。

1枚のカードに撮影できる枚数

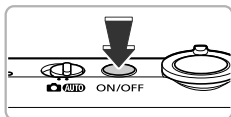
カード	4 GB	16 GB
撮影枚数	約1231枚	約5042枚

- カメラが初期状態での枚数です。
- 撮影枚数は、カメラの各種設定、被写体、カードにより変わります。

 撮影できる枚数を確認するには?

撮影できる枚数は、カメラを撮影モード(p.26)にすると画面で確認できます。

日付／時刻を設定する

はじめて電源を入れると、日付／時刻の設定画面が表示されます。撮影した画像には、ここで設定した日付／時刻をもとにした日時の情報が記録されます。必ず設定してください。

1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- ▶［日付/時刻］画面が表示されます。

2 日付／時刻を設定する

- 設定する項目をタッチして選びます。
- ▶▲か▼が表示されます。
- ▲か▼をタッチして設定します。

3 設定を終える

- ［⮌］をタッチします。
- ▶日付／時刻が設定され、［日付/時刻］画面が消えます。
- 電源ボタンを押すと電源が切れます。

？ 電源を入れるたびに［日付/時刻］画面が表示されるときは？

日付／時刻を設定しないと、電源を入れるたびに［日付/時刻］画面が表示されます。正しく設定してください。

サマータイムの設定

手順2で［☀OFF］をタッチして［☀］にすると、サマータイム（1時間プラスされます）に設定されます。

日付／時刻を変える

日付／時刻を、現在の設定から変えられます。

1 メニューを表示する

- ［FUNC.］をタッチしたあと、［MENU］をタッチします。

2 ［日付/時刻］を選ぶ

- ［𝐘𝐓］タブをタッチします。
- 画面を上下方向にドラッグして［日付/時刻］を選びます。
- ［日付/時刻］をタッチします。

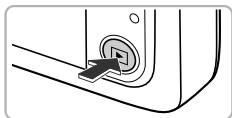
3 日付／時刻を変える

- p.21の手順2～3の操作で設定します。
- ［⮌］を2回タッチすると、メニュー画面が消えます。

日付／時刻用電池について

- カメラには日付／時刻用電池（バックアップ電池）が内蔵されています。バッテリーを取り出してから約3週間は、設定した日付／時刻が保持されます。
- 日付／時刻用電池は、充電したバッテリーをカメラに入れるか、ACアダプターキット（別売）（p.203）を使うと、カメラの電源を入れなくても約4時間で充電されます。
- 日付／時刻用電池がなくなると、カメラの電源を入れたときに［日付/時刻］画面が表示されます。p.21の手順で正しく設定してください。

表示言語を選ぶ

画面に表示される言語を変えられます。お買い上げ時は日本語に設定されています。

1 再生モードにする

● ▶ボタンを押します。

2 設定画面を表示する

● [MENU] をタッチしたままにします。

▶ 設定画面が表示されます。

3 言語を設定する

● 表示したい言語をタッチして選び、[⮌] をタッチします。

▶ 表示言語が設定され、設定画面が消えます。

? [MENU] が表示されない

カード内に画像があるときは、画面左下の [FUNC.] をタッチして、[MENU] を表示します。

言語設定は、[FUNC.]、[MENU] の順にタッチすると表示されるメニュー画面で、[ϒϮ] タブの [言語] を選んで設定することもできます。

カードを初期化する

新しく買ったカードや他のカメラやパソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします。
初期化するとカード内のすべてのデータは消され、もとに戻すことはできません。十分に確認してから初期化してください。
また、Eye-Fiカード（p.175）では、初期化する前にカード内のソフトウェアをパソコンにインストールしてください。

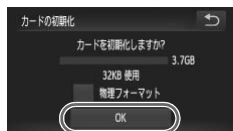
1 メニューを表示する

- ［FUNC.］をタッチしたあと、［MENU］をタッチします。

2 ［カードの初期化］を選ぶ

- ［ŸŤ］タブをタッチします。
- 画面を上下方向にドラッグして［カードの初期化］を選びます。
- ［カードの初期化］をタッチします。

3 ［OK］を選ぶ

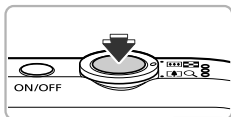
- ［OK］をタッチします。
- ▶ 確認画面が表示されます。

4 初期化する

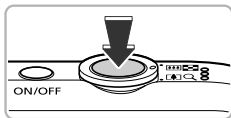
- ［OK］をタッチすると初期化がはじまります。
- 初期化が終わると［カードの初期化が完了しました］が表示されますので、［OK］をタッチします。

カード内のデータは、初期化や消去をしてもファイル管理情報が変わるだけで、完全には消えません。カードを譲渡や廃棄するときは注意してください。廃棄するときはカードを破壊するなどして、個人情報の流出を防いでください。

- 初期化の画面で表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- カメラが正しく動作しない、カードへの画像記録／再生時の読み出しや連続撮影速度が遅くなった、動画撮影が途中で止まるなどのときは、物理フォーマットをしてください（p.155）。

シャッターボタンの押しかた

ピントが合った画像を撮るために、必ずシャッターボタンを浅く押す「半押し」をしてピントを合わせてから、「全押し」して撮影します。

1 半押し（浅く押してピントを合わせる）

- 電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ピントが合った位置にAFフレームが表示されるまで、浅く押します。

2 全押し（そのまま深く押して撮影する）

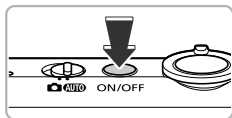
▶ シャッター音が鳴り、撮影されます。
- シャッター音が鳴っている間は撮影中のため、カメラを動かさないように注意してください。

シャッター音の長さが変わる？

- 撮影にかかる時間は、撮影シーンにより変わるため、シャッター音の長さが変わることがあります。
- シャッター音が鳴っている間にカメラを動かしたり、被写体が動いたりすると、ブレの原因になりますので注意してください。

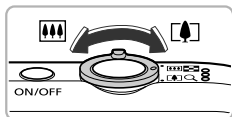
シャッターボタンを半押ししないで撮影すると、ピントが合わない画像になることがあります。

撮る（こだわりオート）

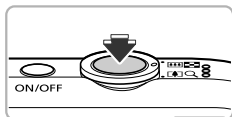
カメラが被写体や撮影状況を判別するため、シーンに最適な設定でカメラまかせの全自動撮影ができます。

1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- ▶ 起動画面が表示されます。

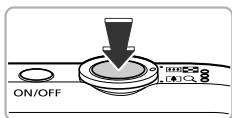
2 AUTOモードにする

- モードスイッチをAUTOにします。
- カメラを被写体に向けると、シーンを判別するため動作音（カチカチ）がします。
- ▶ 画面の左上にカメラが判別したシーンと、右上に手ブレ補正のアイコンが表示されます。（p.184、185）。
- ▶ 被写体が検出されたときは、フレームが表示されてピントを合わせます。
- ▶ 画面左右に黒い帯が表示されます。この部分は撮影できません。

ズームバー

3 撮りたいものの大きさを決める

- ズームレバーを[♠]側に押すと撮りたいものが大きくなり、[♠♠♠]側に押すと小さくなります（ズームの位置を示すズームバーが表示されます）。

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

AFフレーム

▶ピントが合うと電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ピントが合った位置にAFフレームが表示されます。
複数のAFフレームが表示されたときは、表示されたすべてのAFフレームにピントが合っています。

5 撮影する

- シャッターボタンを全押しして、撮影します。
- ▶シャッター音が鳴り、撮影されます（暗いところでは自動的にストロボが光ります）。
- ▶撮影した画像は、約2秒間表示されます。
- 画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを押すと、次の撮影ができます。

画面をタッチして撮る（タッチシャッター）

画面をタッチするだけで被写体にピントと明るさを合わせ、かんたんに撮影することができます。

1 タッチシャッター機能を使えるようにする

- ［ ］をタッチして［ ］にします。

2 ピントを合わせたい被写体を選ぶ

- 画面上の被写体を指で触れたままにします。
- 被写体にピントが合うと電子音が「ピピッ」と2回鳴ります。
青色のAFフレームが表示され、ピントと明るさを合わせ続けます（サーボAF）。

3 撮影する

- 画面から指を離すとシャッター音が鳴り、撮影されます。
- タッチシャッターを使わないようにするときは、［ ］をタッチして［ ］にします。

- タッチシャッター機能は、シャッターボタンを押したときと同じように動作します。
- タッチシャッターの設定は、［FUNC.］、［MENU］の順にタッチすると表示されるメニュー画面で、［ ］タブの［タッチシャッター］を選んで設定することもできます。
- 撮影した画像が表示されている状態でも、［ ］をタッチすると、次の撮影ができます。

ピントを合わせたい被写体を選ぶ（タッチAF）

タッチシャッター機能が［ ］のときに、画面上の被写体にタッチして［ ］を表示したあと、シャッターボタンを半押しすると、青色のAFフレームが表示され、ピントと明るさを合わせ続けます（サーボAF）。シャッターボタンを全押しして撮影します。

こんなときは？

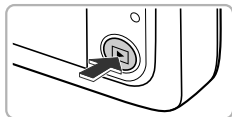
- **思いどおりの色調や明るさで撮影されない**
  画面に表示されるシーンのアイコン（p.184）が、実際のシーンと異なることや、思いどおりの効果で撮影されないことがあります。そのときは、**P**モード（p.81）で撮影することをおすすめします。
- **カメラを被写体に向けると、白や灰色のフレームが表示される**
  カメラが主被写体と判断した顔やものには白のフレーム、複数の顔が検出されたときはその他の顔に灰色のフレームが表示され、一定の範囲で追尾します。ただし、被写体が動いていると判別したときは、灰色のフレームが消えて、白のフレームだけになります。
- **撮りたい被写体にフレームが表示されない**
  被写体が検出されずフレームが表示されなかったり、背景などにフレームが表示されることがあります。そのときは、**P**モード（p.81）で撮影することをおすすめします。

- **シャッターボタンを半押ししたときに、青色のフレームが表示される**
  被写体が動いていると判別したときは、青色のフレームが表示され、ピントと露出を合わせ続けます（サーボAF）。
- **[ ] が点滅表示する**
  手ブレしやすいので、カメラが動かないように、三脚などでカメラを固定してください。
- **ストロボが光ったのに暗い画像になる**
  被写体までの距離が遠すぎます。ズームレバーを 側に押してもっとも広角側にしたときは約30 cm – 3.1 m、[ ]側に押してもっとも望遠側にしたときは約1.0 – 1.7 mの範囲で撮影してください。
- **シャッターボタンを半押ししたときに、電子音が「ピッ」と1回鳴る**
  撮りたいものが近すぎる可能性があります。ズームレバーを 側に押してもっとも広角側にしたときで約1 cm以上、[ ]側に押してもっとも望遠側にしたときは約1 m以上離れて撮影してください。
- **シャッターボタンを半押ししたときに、ランプ（前面）が点灯する**
  暗いところでの撮影では、目が赤く写るのを緩和したり、ピントを合わせるために、ランプが点灯することがあります。
- **撮影しようとしたら、[ ] が点滅表示されて撮影できない**
  ストロボ充電中です。充電が終わると撮影できます。

画面に表示されるアイコンは？

カメラが判別したシーンや手ブレ補正の種類を示すアイコンが表示されます。表示されるアイコンについては「シーンのアイコン」（p.184）、「手ブレ補正アイコン」（p.185）を参照してください。

見る

撮影した画像を画面で見ることができます。

1 再生モードにする

● ▶ボタンを押します。

▶ 最後に撮影した画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

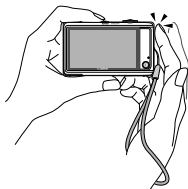
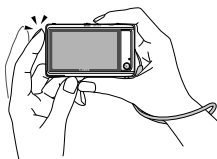
● 画面を右方向にドラッグすると、新しい画像から古い画像の順に表示されます。
● 画面を左方向にドラッグすると、古い画像から新しい画像の順に表示されます。
● 画面左端（左の画面の①の枠内）をタッチすると、◀が表示され、新しい画像から古い画像の順に表示されます。
● 画面右端（左の画面の②の枠内）をタッチすると、▶が表示され、古い画像から新しい画像の順に表示されます。
● ◀か▶をタッチしたままにすると、画像が速く切り換わります。ただし、表示画像は粗くなります。
● 約1分経過すると、レンズが収納されます。
● レンズが収納されているときは、もう一度▶ボタンを押すと、電源が切れます。

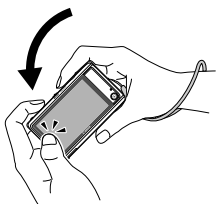
撮影モードに切り換える

再生モードの状態でシャッターボタンを半押しすると撮影モードになります。

アクティブ再生

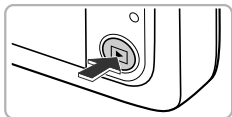
画像を表示しているとき、下の図のようにカメラを指で軽くたたくと、画像を切り換えることができます。

- 必ずストラップに手首を通した状態で、カメラを落とさないようしっかり持ってください。
- たたき方によっては画像が切り換わらないことがあります。

次の画像に切り換える

前の画像に切り換える

カメラを傾けて画像を切り換える

画面左端の◀をタッチしたまま画像を切り換えているとき（p.30）、カメラを図のように傾けると、画像が速く切り換わります。▶をタッチしているときは、逆に傾けます。

ドラッグ、または◀か▶をタッチしたままで画像を切り換えたときは、画像が粗くなります。

消す

不要な画像を1枚ずつ選んで消せます。消した画像はもとに戻すことはできません。十分に確認してから消してください。

1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。
- ▶ 最後に撮影した画像が表示されます。

2 消したい画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選びます。

3 消す

- ［FUNC.］をタッチしたあと、画面を上下方向にドラッグして［🗑］を選び、タッチします。

- ［消去しますか?］が表示されたら、［消去］をタッチします。
- ▶ 表示していた画像が消えます。
- 中止するときは、［キャンセル］をタッチします。

タッチアクションで消すこともできます（p.123）。

動画を撮る

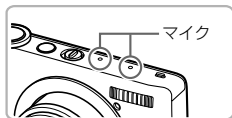
カメラが被写体や撮影状況を判別するため、シーンに最適な撮影ができます。音声はステレオで記録されます。
なお、長時間の撮影を繰り返し行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。

1 AUTO モードにして撮りたいものの大きさを決める

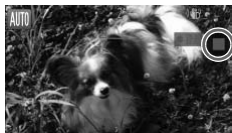
- p.26 の手順 1 〜 3 の操作で撮りたいものの大きさを決めます。
- 撮影できる時間は、画面で確認できます。

2 撮影する

- ［●］をタッチします。
- 画面いっぱいの表示に切り換わり、画面に表示された範囲が撮影されます。

- ▶ 電子音が「ピッ」と1回鳴って撮影がはじまり、［●録画］と撮影時間が表示されます。
- 撮影中に構図を変えると、ピント位置、明るさ、色あいが自動的に調整されます。

- 撮影中はマイクをふさがないでください。
- ▶ マイクをふさいで撮影すると、再生したときに音が聞きとりにくくなることがあります。
- ［●］以外を操作すると、操作音も録音されます。

3 撮影を終える

- ［■］をタッチします。
- ▶ 電子音が「ピピッ」と2回鳴り、撮影が終わります。
- ▶ カード容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終わります。

撮影中に撮りたいものの大きさを変える

撮影中にズームレバーを操作すると、撮りたいものの大きさを変えることができます。ただし、操作音は録音されます。

- モードスイッチが AUTO のときは、カメラが判別したシーンを示すアイコンが表示されます（p.184）。ただし、「動いているときのアイコン」は表示されません。また、シーンによっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。
- 撮影中に構図を変えて、色あいが最適にならないときは、[■] をタッチして撮影を止めてから、もう一度撮影してください（画質が [1920] のときのみ（p.108））。
- モードスイッチが 📷 の位置にあっても、[●] をタッチすると動画を撮影できます（p.103）。

撮影できる時間

カード	4 GB	16 GB
撮影時間	約14分34秒	約59分40秒

- カメラが初期状態での撮影時間です。
- 連続撮影時間は約10分です。
- カードによっては、連続撮影時間に満たなくても、撮影が終わることがあります。SDスピードクラス6以上のカードを使用することをおすすめします。

動画を見る

撮影した動画を画面で見ることができます。

1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。
- ▶ 動画には［▶］が表示されます。

2 再生する動画を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして再生する動画を選びます。

3 再生する

- ［▶］をタッチします。
- ▶ 動画が再生されます。

- 再生中に画面を上下方向にドラッグすると音量を変えられます。
- 再生中に画面をタッチすると停止し、動画操作パネルが表示されます。［▶］をタッチすると再開されます。
- ▶ 再生が終わると、［▶］が表示されます。

? パソコンで動画を見るには？

付属のソフトウェアをインストールしてください（p.37）。

- パソコンで動画を再生すると、パソコンの環境によっては「フレーム（コマ）落ちする」、「滑らかに表示されない」、「音声が途切れる」ことがあります。付属のソフトウェアを使ってカードに動画を書き戻し、カメラで再生してください。なお、カメラをテレビにつなぐとより大きな画面で鑑賞できます。

パソコンに取り込んで見る

付属のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込んで見ることができます。すでにキヤノン製コンパクトデジタルカメラに付属のソフトウェアをお使いのときは、付属のCDで最新のソフトウェアを上書きインストールしてください。

パソコンに必要なシステム構成

Windows

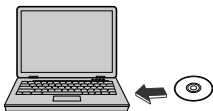
OS	Windows 7（SP1を含む） Windows Vista SP2 Windows XP SP3
機種	上記OSがプリインストールされていて、USBポートが標準装備されていること
CPU	静止画Pentium 1.3 GHz以上、動画Core2 Duo 2.6 GHz以上
RAM	Windows 7（64bit）：2 GB以上 Windows 7（32bit）、Windows Vista（64bit、32bit）：静止画1 GB以上、動画2 GB以上 Windows XP：静止画512 MB以上、動画2 GB以上
インターフェース	USB
ハードディスク空き容量	420 MB以上*
ディスプレイ	1,024 x 768ドット以上

* Windows XPでは、Microsoft .NET Framework 3.0（最大500 MB）以上のインストールが必要です。お使いの環境によっては、インストールに時間がかかることがあります。

Macintosh

OS	Mac OS X v10.5 – v10.6
機種	上記OSがプリインストールされていて、USBポートが標準装備されていること
CPU	静止画Intelプロセッサー、動画Core2 Duo 2.6 GHz以上
RAM	Mac OS X v10.6：静止画1 GB以上、動画2 GB以上 Mac OS X v10.5：静止画512 MB以上、動画2 GB以上
インターフェース	USB
ハードディスク空き容量	480 MB以上
ディスプレイ	1,024 x 768ドット以上

ソフトウェアをインストールする

ここでは、Windows VistaとMac OS X v10.5を使って説明をしています。

1 CDをパソコンのドライブに入れる

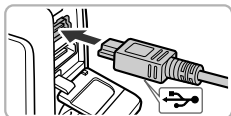
- 付属のCD（DIGITAL CAMERA Solution Disk）（p.2）をパソコンのドライブに入れます。
- Macintosh では、CD を入れるとデスクトップ上に表示されるCDアイコンをダブルクリックして開き、表示される［ ］をダブルクリックします。

2 インストールする

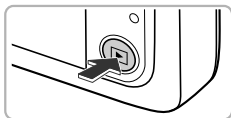
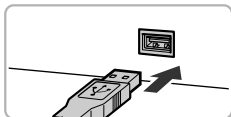
- Windows では［おまかせインストール］をクリックし、Macintoshでは［インストール］をクリックして、表示される画面にしたがって操作を進めます。
- Windowsではユーザーアカウント制御の画面が表示されたら、メッセージにしたがって進めます。

3 インストールを終える

- Windowsでは［再起動］、または［完了］をクリックして、デスクトップ画面が表示されたらCDを取り出します。
- Macintosh ではインストールを終えると表示される画面の［完了］をクリックして、デスクトップ画面が表示されたらCDを取り出します。

画像を取り込む／見る

1 カメラとパソコンをつなぐ

- カメラの電源を切ります。
- ふたを開き、付属のインターフェースケーブル（p.2）の小さい方のプラグを図の向きにして、カメラの端子にしっかりと差し込みます。

- インターフェースケーブルの大きい方のプラグをパソコンのUSB端子に差し込みます。パソコンのUSB端子については、パソコンの使用説明書を参照してください。

2 電源を入れてCameraWindow（カメラウィンドウ）を表示する

- ▶ボタンを押して電源を入れます。

- Windowsでは、表示される画面の［画像をキヤノンカメラからダウンロードします］をクリックして、カメラとパソコンが通信できる状態になると、CameraWindowが表示されます。
- Macintoshでは、カメラとパソコンが通信できる状態になると、CameraWindowが表示されます。

CameraWindow

3 画像を取り込む

- ［カメラ内の画像の取り込み］をクリックしたあと、［未転送画像を取り込む］をクリックします。
- ▶ 画像がパソコンに取り込まれて、「ピクチャ」フォルダ内に撮影日ごとのフォルダに分けられて保存されます。

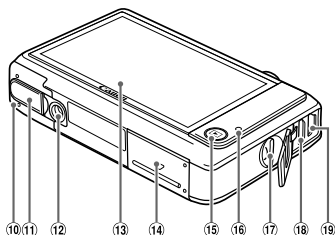
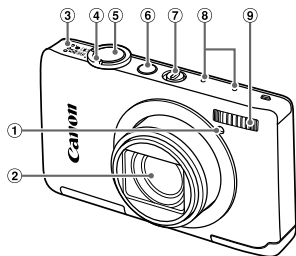
- 取り込みが完了したら CameraWindow を閉じ、カメラの▶ボタンを押して電源を切ってからケーブルを抜きます。
- パソコンで画像を見る操作は、「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

- Windowsで手順2の操作をしても画面が表示されないときは、［スタート］メニュー▶［すべてのプログラム］▶［Canon Utilities］▶［CameraWindow］▶［CameraWindow］を選びます。
- Macintoshで手順2の操作をしてもCameraWindowが表示されないときは、Dock（デスクトップ下部に表示されるバー）の［CameraWindow］アイコンをクリックします。
- Windows 7をお使いのときは、次の手順でCameraWindowを表示します。
  ① タスクバーの［ ］をクリックします。
  ② 表示された画面で、［ ］のプログラムを変更するためのリンクをクリックします。
  ③ ［画像をキヤノンカメラからダウンロードします］を選び、［OK］をクリックします。
  ④ ［ ］をダブルクリックします。
- 付属のソフトウェアの画像取り込み機能を使わなくても、カメラとパソコンをつなぐだけで画像を取り込むことができますが、次のような制限事項があります。
  - カメラとパソコンをつないでから操作できるようになるまで、数分かかることがあります。
  - 縦位置で撮影した画像が横位置になって取り込まれることがあります。
  - 保護した画像が、パソコン側で解除されることがあります。
  - OSのバージョンや使用するソフトウェア、ファイルサイズによっては、画像や画像に付属する情報が正しく取り込まれないことがあります。
  - 動画編集や書き戻しなど、付属のソフトウェアの機能が一部使えなくなることがあります。

2

もっとカメラを知ってみよう

この章ではカメラの各部のなまえや画面の表示内容のほか、各種の基本的な操作方法について説明しています。

各部のなまえ

① ランプ（前面）（p.55、74、75、76、163）
② レンズ
③ スピーカー
④ ズームレバー
撮影時：[♠]（望遠）／[♠♠♠]（広角）（p.26、53）
再生時：Q（拡大）／▦（インデックス）（p.112、119）
⑤ シャッターボタン（p.25）
⑥ 電源ボタン（p.21）
⑦ モードスイッチ
⑧ マイク（p.33）
⑨ ストロボ（p.52、83、100）
⑩ バッテリー収納部ふた（p.18）
⑪ DCカプラー端子カバー（p.174）
⑫ 三脚ねじ穴
⑬ 画面（液晶モニター）（p.43、183、186）
⑭ カード収納部ふた（p.19）
⑮ ▶（再生）ボタン（p.30、111）
⑯ ランプ（背面）（p.44）
⑰ ストラップ取り付け部（p.13）
⑱ HDMI™端子（p.171）
⑲ A / V OUT（映像／音声出力）・DIGITAL（デジタル）端子（p.38、170、140）

モードスイッチ

撮影モードの切り換えは、モードスイッチで行います。

カメラまかせの全自動撮影（p.26）ができます。

撮影シーンに最適な撮影（p.62）や各種機能を設定してさまざまな撮影ができます（p.81）。

画面の表示

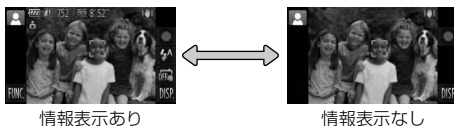
表示の切り換え

画面表示は、［DISP.］をタッチして切り換えます。画面に表示される情報の詳細については、p.183を参照してください。

撮影時

情報表示あり　情報表示なし

再生時

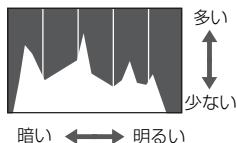
簡易情報表示　詳細情報表示　ピント位置確認表示（p.118）

- 再生時に［ ］をタッチすると、すべての情報やボタンを非表示にできます。この状態で画像を切り換えることもできます（p.30、31）。画面をタッチすると、もとの表示に戻ります。
- 撮影直後の画面表示も、［DISP.］をタッチして切り換えられます。ただし、簡易情報表示は表示されず、情報は非表示になります。最初に表示される画面は、［ ］タブの［レビュー情報］で変えられます（p.164）。

撮影時の暗い場所での画面表示

暗い場所では、自動的に画面が明るくなって構図確認しやすくなります（ナイトビュー機能）。ただし、撮影される画像の明るさとは異なるほか、粗い感じ、またはややぎこちない表示になることがあります（記録される画像に影響はありません）。

再生時の高輝度（ハイライト）警告

「詳細情報表示」（p.43）にすると、画像上の白トビした部分が点滅表示されます。

再生時のヒストグラム

- 「詳細情報表示」（p.186）のグラフは、画像中の明るさの分布を示したヒストグラムというグラフです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとの量を示していて、露出の傾向を確認できます。

ランプの表示

カメラ背面のランプ（p.42）は、カメラの状態に連動して、点灯／点滅状態が変わります。

色	状態	操作状態
緑	点灯	パソコン接続時（p.38）、ディスプレイオフ時（p.159）
	点滅	起動中、カードへの記録／読み出し中、各種通信中、長秒時露光中（p.78）

ランプ（背面）が緑色に点滅しているときは、「電源を切る」、「カード収納部ふたやバッテリー収納部ふたを開ける」、「振動や衝撃を与える」ことは絶対にしないでください。画像、カメラ、カードが壊れることがあります。

FUNC.メニューの基本操作

よく使う機能は、FUNC.メニューで設定できます。
なお、表示されるメニュー項目や項目は、選んでいる撮影モード（p.190～191）や再生モード（p.196）によって変わります。

1 FUNC.メニューを表示する

- ［FUNC.］をタッチします。

2 メニュー項目を選ぶ

- 左側のメニューを上下方向にドラッグするか、項目をタッチして選びます。
- メニュー以外の場所を上下方向にドラッグすることでも項目を選べます。
- 選んだ項目をもう一度タッチするか、右側のメニューをタッチします。

3 項目を選ぶ

- 右側のメニューを上下方向にドラッグするか、項目をタッチして選びます。
- メニュー以外の場所を上下方向にドラッグすることでも項目を選べます。
- 選んだ項目をもう一度タッチするか、［⮌］をタッチします。
- ▶設定されてもとの画面に戻ります。
- 左側のメニュー項目を選びなおすときは、メニュー項目をタッチします。
- 手順2の画面で、右側のメニューの項目をタッチすることでも項目を選べます。

再生モードで、FUNC.メニューの (p.132)、 (p.147)、 (p.125)、★(p.129)、 (p.32)、 (p.114)、 (p.122)、 (p.131) を選んだときは、右側の項目は表示されません。

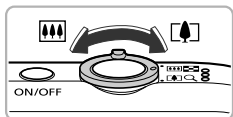
メニューの基本操作

カメラの各種機能をメニューで設定できます。メニュー項目はタブで撮影［📷］や再生［▶］などの系統に分けられています。なお、表示される項目は、選んでいる撮影モードや再生モード(p.192～195)によって変わります。

1 メニューを表示する

- ［FUNC.］をタッチしたあと、［MENU］をタッチします。

2 タブを選ぶ

- タブをタッチするか､ズームレバー(p.42)を左右に動かして、タブを選びます。

3 項目を選ぶ

- 画面を上下方向にドラッグするか､項目をタッチして選びます。
- 選んだ項目をタッチして画面を切り換え、設定する項目もあります。

4 内容を選ぶ

- 内容の左右に ◀ と ▶ が表示される項目では、◀か▶をタッチします。
- バーが表示される項目では、バーの上で設定したい位置をタッチします。

5 設定を終える

- ［↩］をタッチします。
- ▶ 通常の画面に戻ります。

画面の明るさを変える

1 メニューを表示する

- ［FUNC.］をタッチしたあと、［MENU］をタッチします。

2 ［液晶の明るさ］を選ぶ

- ［ﾂﾄ］タブをタッチします。
- 画面を上下方向にドラッグして［液晶の明るさ］を選び、タッチします。

3 明るさを変える

- バーの上で設定したい位置をタッチして明るさを変えます。

音の設定を変える

各ボタンを押したときや撮影のときに鳴る音を、鳴らないようにしたり、音量を変えたりできます。

音を鳴らさない

1 メニューを表示する

- ［FUNC.］をタッチしたあと、［MENU］をタッチします。

2 ［消音］を選ぶ

- ［ƳŤ］タブをタッチします。
- 画面を上下方向にドラッグして［消音］を選び、◀か▶をタッチして［する］を選びます。

音を鳴らさないようにしたときは、動画を再生したとき（p.35）の音声も鳴らなくなります。動画再生中に画面を上方向にドラッグすると音声が鳴り、上下方向にドラッグすると音量を調整できます。

音量を変える

1 メニューを表示する

- ［FUNC.］をタッチしたあと、［MENU］をタッチします。

2 ［音量］を選ぶ

- ［ƳŤ］タブをタッチします。
- 画面を上下方向にドラッグして［音量］を選び、タッチします。

3 音量を変える

- 画面を上下方向にドラッグして項目を選び、バーの上で設定したい位置をタッチして音量を変えます。

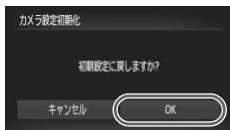
カメラの設定を初期状態に戻す

カメラの設定を誤って変えてしまったときは、初期状態に戻せます。

1 メニューを表示する

- [FUNC.] をタッチしたあと、[MENU] をタッチします。

2 [カメラ設定初期化] を選ぶ

- [YT] タブをタッチします。
- 画面を上下方向にドラッグして [カメラ設定初期化] を選び、タッチします。

3 初期状態に戻す

- [OK] をタッチします。
- ▶ カメラが初期状態に戻ります。

? 初期状態に戻らない機能は？

- [YT] タブの [日付/時刻] (p.22)、[言語] (p.23)、[起動画面] に登録した画像 (p.156)、[エリア設定] (p.159)、[タッチ画面調整] (p.161)、[ビデオ出力方式] (p.171)
- マニュアルホワイトバランスで記憶した白データ (p.85)
- ワンポイントカラー (p.70)、スイッチカラー (p.71) で指定した色
- モードスイッチを撮影にして設定した撮影モード (p.61、103)

節電機能（オートパワーオフ）

バッテリーの消耗を防ぐため、カメラを操作しない状態で一定の時間がたつと、自動的に画面を消したり、電源を切ったりする機能です。

撮影モードでの節電機能

約1分間カメラを操作しないと画面が消え、さらに約2分たつとレンズが収納されて電源が切れます。画面が消えた状態でもレンズが出ているときは、シャッターボタンを半押し（p.25）すると画面が表示され、撮影できます。

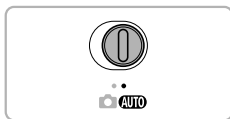
再生モードでの節電機能

約5分間カメラを操作しないと、電源が切れます。

- 節電機能を切ることができます（p.158）。
- 画面が消えるまでの時間を変えられます（p.159）。

3

よく使う機能で撮ってみよう

この章では、ストロボを光らせないようにしたり、セルフタイマーなど、よく使う機能について説明しています。

- AUTOモードになっていることを前提に説明しています。AUTOモード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.188～193）。

ストロボを光らせない

ストロボを光らせないで撮影することができます。

1 ［⚡A］をタッチする

2 ［🚫⚡］を選ぶ

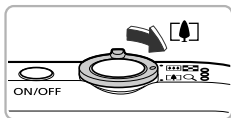
- ［🚫⚡］をタッチします。
- もう一度［🚫⚡］をタッチして設定します。
- ▶ 設定されると、［🚫⚡］が表示されます。
- 戻すときは上記の操作で［⚡A］を選びます。

［手ブレ警告］が点滅表示したときは？

手ブレしやすい暗い場所では、シャッターボタンを半押ししたときに、画面に［手ブレ警告］が点滅表示されます。カメラが動かないように三脚などで固定してください。

手順2の画面で［⇄］をタッチして項目を選ぶこともできます。

被写体をもっと拡大する（デジタルズーム）

光学ズームで被写体が大きく撮れないときは、デジタルズームを使って最大約48倍まで拡大できます。

1 ズームレバーを[]側に押す

- ズームできるところまでレバーを押したままにします。
- ▶ 画像が粗くならない最大の倍率になるとズームが止まり、レバーから指を離すとズーム倍率が表示されます。

倍率

2 もう一度[]側に押す

- ▶ デジタルズームで被写体がさらに拡大されます。

 デジタルズームを切る

デジタルズームを使わないようにするには、［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［］タブの［デジタルズーム］を選び、［切］を選びます。

- 光学ズームとデジタルズームをあわせた焦点距離は以下のとおりです（35mmフィルム換算）。
  28 – 1344 mm（光学ズーム時は28 – 336 mm）
- 設定した記録画素数 (p.58) とデジタルズームの倍率によっては、ズーム倍率が青色で表示されて画像が粗くなります。

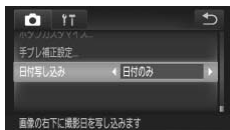
日時を入れる

画像の右下に撮影日時を記録できます。ただし、記録された撮影日時は画像から消せません。あらかじめ日付／時刻が正しく設定されていることを確認してください（p.21）。

1 メニューを表示する

- ［FUNC.］をタッチしたあと、［MENU］をタッチします。

2 ［日付写し込み］を選ぶ

- ［📷］タブをタッチします。
- 画面を上下方向にドラッグして［日付写し込み］を選びます。

3 設定する

- ◀か▶をタッチして［日付のみ］か［日付+時刻］を選びます。
- ［↶］をタッチして撮影画面に戻ります。
- ▶ 設定されると［日付］が表示されます。

4 撮影する

- ▶ 撮影した画像の右下に、撮影日または撮影日時が記録されます。
- 戻すときは、手順3の操作で［切］を選びます。

撮影日を入れずに撮った画像でも、次の方法で撮影日を入れて印刷できます。ただし、撮影日を入れて撮った画像に、撮影日を入れる指定をすると、重複して印刷されることがあります。

- **印刷指定（DPOF）機能を使って印刷する（p.147）**
- **付属のソフトウェアを使って印刷する**
  「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。
- **プリンターの機能を使って印刷する（p.140）**

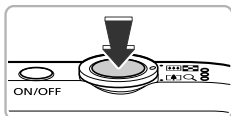
セルフタイマーを使う

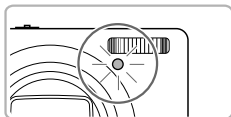
集合写真などで撮影する人も一緒に写るときは、シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されるセルフタイマーを使って撮影します。

1 [OFF] を選ぶ

- [FUNC.] をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして [OFF] を選び、タッチします。

2 [10] を選ぶ

- [10] をタッチします。
- もう一度 [10] をタッチして設定します。
- ▶ 設定されると [10] が表示されます。

3 撮影する

- シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- ▶ タイマーがはじまるとランプ（前面）が点滅して、電子音が鳴ります。
- ▶ 撮影の2秒前になると、ランプ（前面）の点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなります。
- タイマーがはじまったあとに撮影を中止するときは、画面をタッチします。
- 戻すときは、手順 2 の操作で [OFF] を選びます。

セルフタイマーを使って手ブレを防ぐ

シャッターボタンを押してから約2秒後に撮影するため、シャッターボタンを押すときのカメラのブレを防ぐことができます。

[ ] を選ぶ

- p.55の手順1～2の操作で[ ] を選びます。
- ▶ 設定されると [ ] が表示されます。
- p.55の手順3の操作で撮影します。

セルフタイマーの時間と撮影枚数を変える

撮影されるまでのタイマー時間（0 – 30秒）と、撮影枚数（1 – 10枚）を設定できます。

1 [ ] を選ぶ

- p.55の手順1～2の操作で[ ] を選びます。
- 画面右端の [C] をタッチします。

2 設定する

- 設定したい項目の◀か▶をタッチして数値を選びます。
- [ ] を2回タッチして設定を終えます。
- 設定されると [ ] が表示されます。
- p.55の手順3の操作で撮影します。

- 撮影枚数を2枚以上にしたときは、露出や色あいは1枚目の撮影で固定されます。また、ストロボが光るときや撮影枚数が多いときは撮影間隔が長くなったり、カード容量がいっぱいになると自動的に撮影が終わります。
- タイマー時間を2秒以上にしたときは、撮影の2秒前にランプの点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなります。

縦横比（アスペクト比）を変える

画像の縦横の比率を変えられます。

1 ［4:3］を選ぶ

- ［FUNC.］をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして［4:3］を選び、タッチします。

2 項目を選ぶ

- 設定したい項目をタッチして選びます。
- 右側のメニューを上下方向にドラッグすると表示される項目もあります。
- もう一度、選んだ項目をタッチして設定します。
- ▶ 設定されると画面の縦横比が変わります。
- 戻すときは、手順 2 の操作で［4:3］を選びます。

16:9	このカメラの画面と同じ縦横比です。HD（ハイビジョン）対応テレビなどのワイド画面へ表示するときに適しています。
3:2	35mmフィルムと同じ縦横比です。2L判、はがきなどでの印刷に適しています。
4:3	HD（ハイビジョン）非対応テレビなどの画面と同じ縦横比です。L判やA判などでの印刷に適しています。
1:1	正方形です。

? 画面いっぱいに表示して撮影したい

［16:9］にします。ただし、縦横比が16:9のため、L判やA判などの用紙に印刷すると縦横比があわず、余白が多くなったり、画像の一部が印刷されないことがあります。

［4:3］以外では、［デジタルズーム］が［切］に固定されるため、デジタルズーム（p.53）は使えません。

記録画素数（画像の大きさ）を変える

画像の記録画素数を4種類から選べます。

1 記録画素数を選ぶ

- ［FUNC.］をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして［ L ］を選び、タッチします。

2 項目を選ぶ

- 設定したい項目をタッチして選びます。
- 右側のメニューを上下方向にドラッグすると表示される項目もあります。
- もう一度、選んだ項目をタッチして設定します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。
- 戻すときは、手順1〜2の操作で［ L ］を選びます。

圧縮率（画質）を変える

圧縮率を2種類から選べます。高画質から順に［◢］（ファイン）、［▟］（ノーマル）となります。

1 圧縮率を選ぶ

- ［FUNC.］をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして［◢］を選び、タッチします。

2 項目を選ぶ

- 設定したい項目をタッチして選びます。
- もう一度、選んだ項目をタッチして設定します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。
- 戻すときは、手順1〜2の操作で［◢］を選びます。

記録画素数と圧縮率を選ぶときの目安（縦横比4:3のとき）

記録画素数（ピクセル）	圧縮率	1画像の容量（約・KB）	1枚のカードに撮影できる枚数（約・枚）	
			4 GB	16 GB
L（ラージ）	◢	3084	1231	5042
12M/4000x3000	▟	1474	2514	10295
M1（ミドル1）	◢	1620	2320	9503
6M/2816x2112	▟	780	4641	19007
M2（ミドル2）	◢	558	6352	26010
2M/1600x1200	▟	278	12069	49420
S（スモール）	◢	150	20116	82367
0.3M/640x480	▟	84	30174	123550

- 表内の数値は当社測定条件によるもので、被写体やカードの銘柄、カメラ設定などにより変わります。
- 表内の数値は画像の縦横比が4:3のときの値です。縦横比を変えると（p.57）、4:3のときよりも1画像の容量が小さくなるため、撮影できる枚数は多くなります。ただし、［M2］では16:9にすると1画像の記録画素数が1920 x 1080になるため、4:3より容量が大きくなります。

用紙の大きさで選ぶときの目安（縦横比4:3のとき）

- ［S］は、電子メールで画像を送るときなどに適しています。

4

いろいろなシーンや、いろいろな効果をつけて撮ってみよう

この章では、いろいろなシーン別での撮影方法や、いろいろな効果をつける方法について説明しています。

いろいろなシーンで撮る

撮影シーンにあったモードを選ぶと、最適な撮影ができるようにカメラが自動的に設定を行います。

1 モードにする

- モードスイッチをにします。

2 撮影モードを選ぶ

- ［P］をタッチします。

- ◀か▶をタッチしたり、画面を左右方向に素早くドラッグすると、別の撮影モードが表示されます。
- 撮りたいモードをタッチします。

- ▶ 選んだ撮影モードの説明が表示されます。
- ［OK］をタッチして決定します。
- ［⮌］をタッチすると撮影モードを選ぶ画面に戻ります。

3 撮影する

人を撮る（ポートレート）

- 人をやわらかい感じで撮影できます。

子供やペットを撮る（キッズ&ペット）

- 子供やペットなど動きまわる被写体でも、シャッターチャンスを逃さずに撮影できます。
- 被写体からは、もっとも広角側にしたときで約1 m以上、もっとも望遠側にしたときで約3 m以上離れて撮影してください。

三脚を使わずに夜景を撮る（手持ち夜景）

- 連続撮影した画像を合成することにより、手ブレやノイズを軽減して夜景をきれいに撮影できます。
- 三脚を使って撮影するときは、AUTOモードで撮影することをおすすめします（p.26）。

暗い場所で撮る（ローライト）

- 暗い場所でも手ブレや被写体ブレをおさえて撮影できます。

砂浜で撮る（ビーチ）

- 太陽の光の反射が強い砂浜で、人を明るく撮影できます。

木々や葉を色鮮やかに撮る（新緑/紅葉）

- 新緑や紅葉、桜など自然の木々や葉を、色鮮やかに撮影できます。

雪景色で人を撮る（スノー）

- 雪景色を背景に、人を明るく自然な色あいで撮影できます。

花火を撮る（打上げ花火）

- 打上げ花火を色鮮やかに撮影できます。

- ［ ］モードでは連続撮影するため、撮影中はカメラをしっかり構え続けてください。
- ［ ］モードでは手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.165）。

- ［ ］［ ］モードでは、撮影シーンによってはISO感度（p.86）が高くなるため、画像が粗くなることがあります。
- ［ ］モードでは、ブレが大きすぎるなど、シーンによっては合成できなかったり、思いどおりの効果が得られないことがあります。
- ［ ］モードでは、記録画素数は［ M ］（1984 x 1488画素）に固定されます。

効果をつけて撮る

いろいろな効果をつけて撮影することができます。

1 撮影モードを選ぶ

- p.62 の手順 1 ～ 2 の操作で撮影モードを選びます。

2 撮影する

［］［］［］［］［］モードでは、シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがあるので、事前に試し撮りをすることをおすすめします。

鮮烈な色で撮る（極彩色）

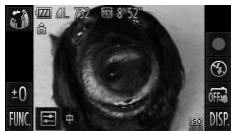
- 色の濃さを強調して、高彩度の鮮烈な色で撮影できます。

イラスト風の効果をつけて撮る（オールドポスター）

- 古いポスターのようなイラスト風の効果をつけて撮影できます。

魚眼レンズのような効果をつけて撮る（魚眼風）

魚眼レンズで撮ったようなデフォルメ効果をつけて撮影します。

1 [ ] を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で [ ] を選びます。

2 効果を選ぶ

- [ ] をタッチすると、[効果のレベル] が表示されます。

- ◀か▶をタッチして効果のレベルを選び、[ ] をタッチします。
- ▶ 設定した効果で画面が表示されます。

3 撮影する

ミニチュア模型のように撮る（ジオラマ風）

指定した範囲の上下をぼかして撮ることで、ミニチュア模型のような効果をつけて撮影します。

1 ［ ］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［ ］を選びます。
- ▶画面に白い枠（ぼかさない範囲）が表示されます。

2 ピントが合う位置と範囲を指定する

- ピント位置を変えるときは、画面をタッチするか、白い枠を上下方向にドラッグします。

- ピントの範囲を変えるときは、［ ］をタッチして、［ ］［ ］［ ］のいずれかをタッチして選び、［ ］をタッチします。

3 撮影する

- 手順2の画面で［ ］をタッチすると枠が縦になり、画面をタッチするか、白い枠を左右方向にドラッグして位置を変えられます。もう一度［ ］をタッチすると枠が横に戻ります。
- カメラを縦位置で構えると、枠の向きが変わります。
- ［10x］は、ジオラマ風の動画を撮影するときに設定します（p.105）。

トイカメラのような効果をつけて撮る（トイカメラ風）

画像の四隅を暗くぼかして、全体の色調を変えることで、トイカメラで撮影したような効果をつけて撮影できます。

1 ［📷］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［📷］を選びます。

2 色調を選ぶ

- ［☲］をタッチすると、［色調］が表示されます。

- ◀か▶をタッチして色調を選び、［↶］をタッチします。
- ▶ 設定した色調で画面が表示されます。

3 撮影する

標準	トイカメラ風の画像になります。
暖色	［標準］より暖色系のトイカメラ風画像になります。
寒色	［標準］より寒色系のトイカメラ風画像になります。

単色で撮る（モノクロ）

画像を白黒、セピア調、青白にして撮影できます。

1 ［◪］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［◪］を選びます。

2 色調を選ぶ

- ［☲］をタッチすると、［色調］が表示されます。

- ◀か▶をタッチして色調を選び、［↶］をタッチします。
- ▶ 設定した色調で画面が表示されます。

3 撮影する

白黒	白黒で撮影できます。
セピア	セピア調で撮影できます。
青	青白で撮影できます。

ワンポイントカラーで撮る

画面内の指定した1色のみを残し、それ以外を白黒にして撮影できます。

1 [ ] を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で[ ] を選びます。

2 [ ] をタッチする

▶ 色を変える前の画像とワンポイントカラーの画像が交互に表示されます。

▶ 初期状態では、残る色が緑色に設定されています。

取り込まれた色

3 残す色を指定する

- 残したい色が中央の枠いっぱいに入るようにして、画面下部の枠をタッチします。

▶ 指定した色が取り込まれます。

4 残す色の範囲を指定する

- ▲か▼をタッチして、残したい色の範囲を変えます。
- 指定した色だけを残すときは－の値を大きくします。指定した色に近い色も残すときは+の値を大きくします。
- [ ] をタッチすると撮影画面に戻ります。

- ストロボを使うと、思いどおりの画像にならないことがあります。
- 撮影シーンによっては、画像が粗くなったり、思いどおりの色にならないことがあります。

スイッチカラーで撮る

画面内の指定した1色を別の色に変えて撮影できます。別の色の取り込みは1色のみです。

1 [ ] を選ぶ

● p.62の手順1～2の操作で[ ] を選びます。

2 [ ] をタッチする

▶ 色を変える前の画像とスイッチカラーの画像が交互に表示されます。

▶ 初期状態では、緑色を灰色に変えるよう設定されています。

3 変える前の色を指定する

● 中央の枠いっぱいに入るようにして画面下部の左側の枠をタッチします。

▶ 指定した色が取り込まれます。

4 変えたあとの色を指定する

● 中央の枠いっぱいに入るようにして画面下部の右側の枠をタッチします。

▶ 指定した色が取り込まれます。

5 変えたあとの色の範囲を指定する

● ▲か▼をタッチして、残したい色の範囲を変えます。

● 指定した色だけを変えるときは－の値を大きくします。指定した色に近い色も変えるときは+の値を大きくします。

● [ ] をタッチすると撮影画面に戻ります。

- ストロボを使うと、思いどおりの画像にならないことがあります。
- 撮影シーンによっては、画像が粗くなったり、思いどおりの色にならないことがあります。

短編動画を自動で作る（ムービーダイジェスト）

静止画を撮影しているだけで、1日をまとめた短編動画ができます。
静止画を撮影するたびに、その直前のシーンが動画として自動で記録されます。同じ日に記録された動画は、1つのファイルとして保存されます。

1 ［ ］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［ ］を選びます。

2 撮影する

- シャッターボタンを押して、静止画を撮影します。
- ▶ 撮影直前の約2～4秒間の動画も自動的に記録されます。

動画が記録されない

電源を入れたり［ ］モードを選ぶなど、カメラを操作した直後に静止画を撮影したときは、動画が記録されないことがあります。

ムービーダイジェストモードで作成された動画を見る

［ ］モードで作成された動画を、日付で選んで見ることができます（p.114）。

- 静止画と一緒に動画が撮影されるため、AUTO モードよりバッテリーの消耗が早くなります。
- ［ ］モードで作成された動画の画質は、［640］に固定されます。
- 次のときは、同じ日に［ ］モードで作成された動画でも、別ファイルとして保存されます。
  - 動画の容量が約4 GBになるか、記録時間が約1時間になったとき
  - 動画を保護したとき（p.125）
  - エリア設定を変えたとき（p.159）
  - フォルダが新しく作成されたとき（p.158）
- 動画には、カメラを操作したときの操作音が録音されます。
- シャッターボタンを半押ししたときの音、［操作音］、［セルフタイマー音］（p.154）などの電子音は鳴りません。

顔を見つけて撮る（オートシャッター）

笑顔を見つけて撮る（スマイル）

シャッターボタンを押さなくても、カメラが笑顔を検出するたびに、自動で撮影します。

1 [ ] を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で [ ] を選んだあと、[ ] をタッチします。
- [ ] をタッチして選び、[ ] をタッチします。

笑顔検出の入/切

撮影枚数の設定、モードの切り換え（p.75、76）

2 カメラを人に向ける

- カメラが笑顔を検出するたびに、ランプ（前面）が光ったあと撮影されます。
- [ ] をタッチすると笑顔の検出を中断できます。[ ] をタッチすると笑顔の検出を再開します。

笑顔が検出されない

カメラの方を向いて、歯が見えるように口を開けて笑うと検出されやすくなります。

撮影枚数を変える

[ ] をタッチしたあと、▲か▼をタッチして枚数を選び、[ ] をタッチすると変えられます。

- 笑顔を検出するたびに撮影し続けるので、撮影が終わったら、他の撮影モードに変えることをおすすめします。
- シャッターボタンを押して撮影することもできます。

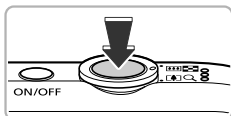
ウインクしたら撮る（ウインクセルフタイマー）

カメラを人に向けてシャッターボタンを押したあと、カメラがウインクを検出すると、約2秒後に撮影されます。

1 ［ ］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［ ］を選んだあと、［ ］をタッチします。
- ［ ］をタッチして選び、［ ］をタッチします。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

- 画面の顔をタッチして、ウインクする人を選びます（タッチAF）。
- ウインクする人の顔に緑色の枠が表示されていることを確認します。

3 シャッターボタンを全押しする

- ▶撮影準備に入り、［ウインクすると撮影します］が表示されます。
- ▶ランプ（前面）が点滅し、電子音が鳴ります。

4 カメラに向かってウインクする

- ▶枠が表示された人のウインクが検出されると、約2秒後に撮影されます。
- タイマーがはじまったあとに撮影を中止するときは、画面をタッチします。

ウインクが検出されない？

- 少し長めに、しっかりとウインクしてください。
- 帽子や髪で目が隠れていたり、眼鏡をかけていたりすると、ウインクが検出されないことがあります。

撮影枚数を変える

手順1の画面で［ ］をタッチしたあと、▲か▼をタッチして枚数を選び、［ ］をタッチすると変えられます。

- 両目をつむってもウインクとして検出されます。
- ウインクが検出されないときは、約15秒後に撮影されます。
- 人がいない構図でシャッターボタンを全押ししたときは、あとから構図に入った人のウインクで撮影がはじまります。

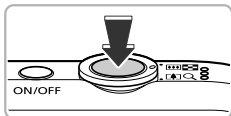
人が増えたら撮る（顔セルフタイマー）

シャッターボタンを押した人が構図に入って顔が検出（p.93）されると、約2秒後に撮影されます。集合写真などで撮影する人も一緒に写りたいときにおすすめです。

1 ［ ］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［ ］を選んだあと、［ ］をタッチします。
- ［ ］をタッチして選び、［ ］をタッチします。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

- ピントが合った顔には緑色、それ以外の顔には白の枠が表示されていることを確認します。

3 シャッターボタンを全押しする

- 撮影準備に入り［顔が増えたら撮影します］が表示されます。
- ランプ（前面）が点滅し、電子音が鳴ります。

4 一緒に写る人が構図に入り顔をカメラに向ける

▶ 新しい顔が検出されると、ランプの点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなり、約2秒後に撮影されます。

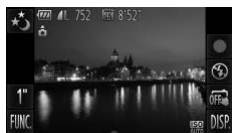
● タイマーがはじまったあとに撮影を中止するときは、画面をタッチします。

撮影枚数を変える

手順1の画面で［ ］をタッチしたあと、▲か▼をタッチして枚数を選び、［ ］をタッチすると変えられます。

一緒に写る人が構図に入っても顔を検出できないときは、約15秒後に撮影されます。

長秒時露光で撮る（長秒時撮影）

シャッタースピードを1～15秒の範囲に設定して、長秒時露光撮影ができます。なお、手ブレを防ぐため、三脚などでカメラを固定して撮影します。

1 ［☆］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［☆］を選びます。

2 シャッタースピードを選ぶ

- ［1"］をタッチします。
- バーの上で設定したい位置をタッチするか、バーを左右方向にドラッグしてシャッタースピードを選び、［↰］をタッチします。

3 露出を確認する

- シャッターボタンを半押しすると、選んだシャッタースピードの露出で画面が表示されます。

4 撮影する

- 手順3でシャッターボタンを半押ししたときの画面の明るさは、撮影される画像と異なることがあります。
- シャッタースピードが1.3秒以上のときは、撮影後にノイズ低減処理を行うため、次の撮影までにしばらく時間がかかります。
- 三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.165）。

- ストロボが発光すると、白トビした画像になることがあります。そのときは、ストロボを［⊛］にして撮影します。
- ［FUNC.］をタッチすると表示されるFUNC.メニューで設定することもできます。

高速で連続して撮る（ハイスピード連写）

シャッターボタンを全押ししている間、1秒間に最高約7.8枚の連続撮影ができます。

1 [] を選ぶ

● p.62の手順1〜2の操作で[ ]を選びます。

2 撮影する

▶ シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影されます。

- 記録画素数は［ M ］（1984 x 1488画素）に固定されます。
- ピント、明るさ、色あいは、1枚目の撮影で固定されます。
- 撮影シーンやカメラの設定、ズーム位置によっては、一定の間隔で撮影されなかったり、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- 撮影枚数が多くなると、連続撮影の速度が遅くなることがあります。

再生したときの表示について

1回に連続撮影された複数の画像が1つのグループにまとめられ（グループ化）、連続撮影の最初に撮影された画像のみが表示されます。また、この画像にはグループ化されていることを示す［ ］が表示されます。

グループ化された画像を消す（p.127）と、グループ内のすべての画像が消されますので十分注意してください。

- グループ化された画像を1枚ずつ見たり（p.120）、グループ化を解除できます（p.121）。
- グループ化された画像を保護（p.125）すると、グループ内のすべての画像が保護されます。
- 絞り込み再生（p.115）や連想再生（p.122）で、グループ化された画像を表示すると、グループ化が一時的に解除されて1枚ずつの表示になります。
- グループ化された画像は、一部のタッチアクション（p.123）、お気に入り設定（p.129）、編集（p.132〜138）、カテゴリー分け（p.131）、印刷（p.140）、印刷指定（p.149）、フォトブック指定（p.151）はできません。グループ化された画像を1枚表示（p.120）にするか、グループ化を解除（p.121）してから行ってください。

よい表情を逃さずに撮る（ベストセレクト連写）

連続撮影した5枚の画像の中から、顔の表情などを検出して、カメラが最適と判断した1枚だけを保存します。

1 ［ ］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［ ］を選びます。

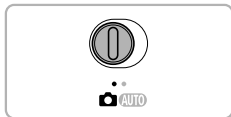
2 撮影する

▶ シャッターボタンを全押しすると、5枚連続で撮影され、カメラが選んだ1枚の画像だけが保存されます。

- 記録画素数は［ M ］（1984 x 1488画素）に固定されます。
- ピント、明るさ、色あいは、1枚目の撮影で固定されます。
- 撮影シーンによっては、思いどおりの画像が保存されないことがあります。

5

目的の設定にして撮ってみよう

この章では、Pモードのいろいろな機能を使って、一歩進んだ撮影方法について説明します。

- モードスイッチが◘で、Pモードになっていることを前提に説明しています。
- Pは、Program AE（プログラムエーイー）の略です。
- この章で説明する機能をPモード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.188～193）。

プログラムAEで撮る

いろいろな機能を自分好みに設定して撮影できます。
AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。
なお、撮影距離は、ズームレバーを側に押してもっとも広角側にしたときで約5 cm以上、側に押してもっとも望遠側にしたときで約1 m以上になります。

1 Pモードにする

- p.62の手順1～2の操作で［P］を選びます。

2 目的に応じて各機能を設定する（p.83～102）

3 撮影する

シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されたときは？

シャッターボタンを半押ししたときに適正露出が得られないと、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。次の設定で、適正露出が得られることがあります。

- ストロボを発光させる（p.83）
- ISO感度を高くする（p.86）

明るさを変える（露出補正）

カメラが決めた標準的な露出を、1/3段ずつ、±2段の範囲で補正できます。

1 露出補正を選ぶ

- ［±0］をタッチします。

2 明るさを補正する

- 画面の表示を見ながら、バーの上をタッチするか、左右方向にドラッグして明るさを補正し、［↩］をタッチします。
- ▶ 設定した補正量が表示されます。

［FUNC.］をタッチすると表示されるFUNC.メニューで設定することもできます。

ストロボを発光させる

ストロボを常に発光させて撮影できます。ストロボ撮影できる範囲は、ズームレバーを[W]側に押してもっとも広角側にしたときで約30 cm – 3.1 m、[T]側に押してもっとも望遠側にしたときで約1.0 – 1.7 mです。

［⚡］を選ぶ

- ［⚡A］をタッチしたあと、［⚡］をタッチします。
- もう一度［⚡］をタッチして設定します。
- ▶ 設定されると［⚡］が表示されます。

上記の画面で［⇄］をタッチして項目を選ぶこともできます。

色あいを調整する（ホワイトバランス）

ホワイトバランス（WB）は、撮影シーンにあわせて自然な色あいにする機能です。

1 ホワイトバランスを選ぶ

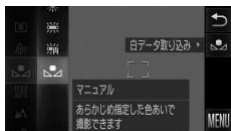
- ［FUNC.］をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして［AWB］を選び、タッチします。

2 項目を選ぶ

- 設定したい項目をタッチして選びます。
- 右側のメニューを上下方向にドラッグすると表示される項目もあります。
- もう一度、選んだ項目をタッチして設定します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

AWB オート	撮影シーンに応じて自動設定
太陽光	晴天の屋外
くもり	曇り空や日陰、薄暮
電球	電球、電球色タイプ（3波長型）の蛍光灯
蛍光灯	昼白色蛍光灯、白色蛍光灯、昼白色タイプ（3波長型）の蛍光灯
蛍光灯H	昼光色蛍光灯、昼光色タイプ（3波長型）の蛍光灯
マニュアル	マニュアルホワイトバランス（手動設定）（p.85）

マニュアルホワイトバランス

撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを変えて、撮影時の光源に適した色あいで撮影できます。撮影場所の光源のもとで設定してください。

- p.84の手順2の操作で［ ］を選びます。
- 画面いっぱいに白い無地の被写体が入るようにして、画面右端の［ ］をタッチします。
- ▶ 白データが取り込まれて設定されると、画面の色あいが変わります。

白データを取り込んだあとにカメラの設定を変えると、適切な色あいにならないことがあります。

ISO感度を変える

1 ISO感度を選ぶ

- ［FUNC.］をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして［ISO AUTO］を選び、タッチします。

2 項目を選ぶ

- 設定したい項目をタッチして選びます。
- 右側のメニューを上下方向にドラッグすると表示される項目もあります。
- もう一度、選んだ項目をタッチして設定します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

ISO AUTO	撮影モードと撮影シーンに応じて自動設定	
ISO 100 ISO 200	低い	晴天の屋外
ISO 400 ISO 800	↕	曇り空、夕方
ISO 1600 ISO 3200	高い	夜景、暗い室内

ISO感度を変えるときの目安

- ISO感度を低くすると粗さが目立たない画像になりますが、撮影シーンによっては被写体ブレや手ブレがおきやすくなることがあります。
- ISO感度を高くするとシャッタースピードが速くなるため、被写体ブレや手ブレが軽減されたり、ストロボの光が遠くの被写体まで届くようになりますが、画像が粗くなります。

［ISO AUTO］では、シャッターボタンを半押しすると自動設定されたISO感度が画面に表示されます。

明るさを補正して撮る（i-コントラスト）

人の顔や背景など、一部が明るすぎたり暗すぎたりするときは、その部分を検出し、適切な明るさに自動補正して撮影することができます。また、画面全体で明暗差が小さいときは、くっきりした印象となるように自動補正して撮影することができます。

［i-コントラスト］を選ぶ

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［📷］タブの［i-コントラスト］を選び、◀か▶をタッチして［自動］を選びます。
- ▶ 設定されると［C_i］が表示されます。

- 撮影シーンによっては画像が粗くなったり、正しく補正されないことがあります。
- 撮影した画像を補正することもできます（p.137）。

連続して撮る

シャッターボタンを全押ししたままにすると、連続撮影ができます。

1 ドライブモードを選ぶ

- [FUNC.] をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして [□] を選び、タッチします。

2 項目を選ぶ

- [連続撮影] をタッチして選びます。
- もう一度 [連続撮影] をタッチして設定します。
- ▶ 設定されると [連続撮影] が表示されます。

3 撮影する

- ▶ シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影されます。

モード	最高速度（約・枚/秒）	説明
連続撮影	3.3	シャッターボタンを半押ししたときのピント位置と露出で連続撮影されます。
AF連続撮影	0.8	連続撮影中もピント合わせが行われます。[AFフレーム] は [一点] に固定されます。
LV連続撮影＊	0.9	連続撮影中は、マニュアルフォーカスで設定したピント位置に固定されます。[▒] モードでは、1枚目のピント位置で固定されます。

＊ [▒] モード時（p.64）、AFロック撮影時（p.97）は、[AF連続撮影] が [LV連続撮影] になります。

- セルフタイマー（p.55、56）とは一緒に使えません。
- [ ] モード（p.63）では、連続撮影の速度が速くなります。
- 撮影シーン、カメラの設定、ズーム位置によっては、一定の間隔で撮影されなかったり、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- 撮影枚数が多くなると、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- ストロボが発光するときは、連続撮影の速度が遅くなることがあります。

画像の色調を変える（マイカラー）

通常の撮影画像とは違った印象の画像にしたり、セピア調や白黒画像に変えることができます。

1 マイカラーを選ぶ

- ［FUNC.］をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして［OFF］を選び、タッチします。

2 項目を選ぶ

- 設定したい項目をタッチして選びます。
- 右側のメニューを上下方向にドラッグすると表示される項目もあります。
- もう一度、選んだ項目をタッチして設定します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

項目	内容
マイカラー切	—
くっきりカラー	コントラストと色の濃さを強調し、くっきりした印象の色調になります。
すっきりカラー	コントラストと色の濃さをおさえ、すっきりとした印象の色調になります。
セピア	セピア調になります。
白黒	白黒になります。
ポジフィルムカラー	「あざやかブルー」、「あざやかグリーン」、「あざやかレッド」の効果をあわせたもので、ポジフィルムのように自然で色鮮やかになります。
色白肌	人の肌が色白になります。
褐色肌	人の肌が褐色になります。
あざやかブルー	青色を強調します。空や海などがより鮮やかになります。
あざやかグリーン	緑色を強調します。山や草花などがより鮮やかになります。
あざやかレッド	赤色を強調します。赤い被写体がより鮮やかになります。
カスタムカラー	画像の色調を自分好みに設定できます（p.90）。

- ［Se］［BW］では、ホワイトバランス（p.84）は設定できません。
- ［L］［D］では、人の肌の色以外が変わることがあります。また、肌の色によっては、思いどおりの色にならないことがあります。

カスタムカラー

画像のコントラスト（明暗差）、シャープネス（先鋭度）、色の濃さ、赤、緑、青、肌色を、それぞれ5段階から選んで設定できます。

- p.89の手順2の操作で［C］を選びます。
- 画面右端の［ C ］をタッチします。

- ◀か▶タッチして項目を選び、バーの上で設定したい位置をタッチします。
- 設定値が右側に行くほど強く／濃く／褐色（肌色）になり、左に行くほど弱く／薄く／色白（肌色）になります。
- ［↩］をタッチして設定します。

近くの被写体を撮る（マクロ撮影）

［🌷］に設定すると、近いものだけにピントを合わせます。
ピントが合う範囲（フォーカスゾーン）は、ズームレバーを▥側に押してもっとも広角側にしたときでレンズ先端から約1 – 50 cmです。

［🌷］を選ぶ

- ［FUNC.］をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして［▲A］を選び、タッチします。
- ［🌷］をタッチし、もう一度［🌷］をタッチして設定します。
- ▶ 設定されると［🌷］が表示されます。

うまく撮影するために

手ブレを防ぐため、三脚などでカメラを固定し、［⏲2］で撮影することをおすすめします（p.56）。

ズームバーの下にある黄色のバー表示の範囲は、［🌷］が灰色表示になりピントが合いません。

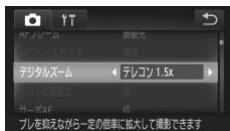
遠くの被写体を撮る（遠景撮影）

［▲▲］に設定すると、遠いものだけにピントを合わせます。カメラから3 m以上はなれた遠くの被写体を撮るとき、［▲▲］に設定するとより確実なピント合わせができます。

［▲▲］を選ぶ

- ［FUNC.］をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして［▲A］を選び、タッチします。
- ［▲▲］をタッチし、もう一度［▲▲］をタッチして設定します。
- ▶ 設定されると［▲▲］が表示されます。

デジタルテレコンバーターを使う

レンズの焦点距離を1.5倍 / 2.0倍にできます。ズーム操作（デジタルズーム含む）で同じ倍率に拡大したときよりも、シャッタースピードが速くなるため手ブレを軽減できます。

［デジタルズーム］を選ぶ

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［📷］タブの［デジタルズーム］を選び、◀か▶をタッチして内容を選びます。
- ▶ 画面が拡大表示されて、倍率が表示されます。

- 1.5倍 / 2.0倍時の焦点距離はそれぞれ42.0 – 504 mm / 56.0 – 672 mmです（35mmフィルム換算）。
- 記録画素数（p.58）が［L］［M1］のときは、倍率が青色で表示されて画像が粗くなります。
- デジタルズーム（p.53）とは一緒に使えません。
- デジタルコンバーターが使えるのは、縦横比が［4:3］のときのみです。
- ズームレバーを[♠]側に押してもっとも望遠側にしたときのシャッタースピードは、p.53の手順2の操作で被写体を同じような大きさに拡大したときのシャッタースピードと同じになることがあります。

AFフレームモードを変える

撮影シーンにあわせて、AF（自動ピント合わせ）フレームモードを変えられます。

［AFフレーム］を選ぶ

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［📷］タブの［AFフレーム］を選び、◀か▶をタッチして内容を選びます。

顔優先

- 人の顔を検出して、ピント、露出（評価測光時のみ）、色あい（［AWB］時のみ）を合わせます。
- カメラを被写体に向けると、主被写体と判断した顔に白のフレーム、他の顔には最大2つの灰色のフレームが表示されます。
- 検出した顔が動いていると判別したときは、一定の範囲で追尾します。
- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った顔には緑色のフレーム（最大9個）が表示されます。

- 顔が検出されないときや、白のフレームが表示されず灰色のフレームのみが表示されたときは、シャッターボタンを半押しすると、中央にフレームが表示されます。
- サーボAF（p.97）が［入］で顔が検出されないときに、シャッターボタンを半押しすると中央にフレームが表示されます。
- 顔として検出できない例
  - 被写体までの距離が遠い、または極端に近い。
  - 被写体が暗い、または明るい。
  - 顔が横や斜めを向いている、または一部が隠れている。
- 人の顔以外を、誤って検出することがあります。
- シャッターボタンを半押ししてピントが合わないときは、AF フレームは表示されません。

一点

AFフレームが1点になります。確実なピント合わせに有効です。

AFフレームを小さくする

- [FUNC.]、[MENU] の順にタッチして、[📷] タブの [AFフレームサイズ] で [小] を選びます。
- デジタルズーム（p.53）やデジタルテレコンバーター（p.92）使用時は、[標準] に設定されます。

シャッターボタンを半押ししてピントが合わないときは、黄色のAFフレームと [❗] が表示されます。

構図を変えて撮る（フォーカスロック撮影）

シャッターボタンを半押ししている間はピントと露出が固定され、そのまま構図を変えて撮影できます。これをフォーカスロック撮影といいます。

1 ピントを合わせる

- 撮りたいものを画面の中央にして、シャッターボタンを半押しします。
- AF フレームが、被写体に緑色で表示されていることを確認します。

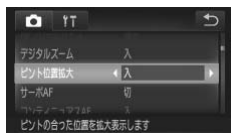
2 構図を変える

- シャッターボタンを半押ししたまま、カメラを動かして構図を変えます。

3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。

ピント位置を拡大表示する

シャッターボタンを半押ししたときに、AFフレームの位置を拡大表示してピントを確認することができます。

1 ［ピント位置拡大］を選ぶ

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［📷］タブの［ピント位置拡大］を選び、◀か▶をタッチして［入］を選びます。

2 ピントを確認する

- シャッターボタンを半押しします。
- ▶［顔優先］（p.93）では、主被写体として検出された顔が拡大表示されます。
- ▶［一点］（p.94）では、AFフレームが拡大表示されます。

? 拡大表示されない？

［顔優先］で、顔が検出できないときや、顔が画面に対して大きいとき、［一点］でピントが合わないときは拡大表示されません。

デジタルズーム（p.53）、デジタルテレコンバーター（p.92）、サーボAF（p.97）は拡大表示されません。

ピントを合わせたい被写体を選んで撮る（タッチAF）

目的の人の顔や被写体を選んだり、画面上の位置を指定してピントを合わせ、撮影できます。

1 ピントを合わせたい顔、被写体または位置を選ぶ

- 画面上の人や被写体にタッチします。

- ▶ AFフレームモードが［顔優先］のときは、被写体として認識すると電子音が鳴り、［ ］枠が表示されます（動いていてもピントを合わせ続けます）。
- ▶ AFフレームモードが［一点］のときは、タッチした位置にAFフレームが表示されます。
- 解除するときは、［⮌］をタッチします。

2 撮影する

- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合っている枠が緑色の［ ］に変わります。
- シャッターボタンを全押しして撮影します。

タッチAFできない

画面の［ ］をタッチして、［ ］（p.27）にするか、［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［ ］タブの［タッチシャッター］を［切］にすると、タッチAFができるようになります。

タッチしたら、画面全体に四角の枠が表示された

四角の枠の外側に顔や被写体があっても、タッチできません。四角の枠内に顔や被写体を入れてからタッチしてください。

- 被写体が小さすぎたり動きが速いときや、被写体と背景との明暗差が小さいときは、追尾できないことがあります。
- ［ ］や［ ］に設定しても（p.91）、AFフレームモードが［顔優先］のときに、ピントを合わせる位置を指定すると、［ ］に戻ります。

AFロックで撮る

ピントを固定できます。固定後はシャッターボタンから指を離しても、ピント位置は固定されたままになります。

1 ピントを合わせて固定する

- シャッターボタンを半押ししたまま、画面上部（左の画面の枠内）をタッチします。
- ▶ピントが固定され、[AFL]が表示されます。
- シャッターボタンから指を離してもう一度画面をタッチすると、[AFL] が消えて解除されます。

2 構図を決めて撮影する

サーボAFで撮る

シャッターボタンを半押ししている間は被写体にピントと露出を合わせ続けるため、動いている被写体のシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。

1 [サーボAF] を選ぶ

- [FUNC.]、[MENU] の順にタッチして、[📷] タブの [サーボAF] を選び、◀か▶をタッチして [入] を選びます。

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押ししている間、青色でAFフレームが表示され、ピントと露出を合わせ続けます。

- 撮影シーンによっては、ピントが合わなくなることがあります。
- 暗い場所では、シャッターボタンを半押ししてもAFフレームが青色にならないときがあります。そのときは、設定しているAFフレームモードでピントと露出を合わせます。
- 適正露出が得られなくなると、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。いったんシャッターボタンから指を離して、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。
- AFロック撮影はできません。
- メニューの［◘］タブの［ピント位置拡大］は設定できません。
- セルフタイマー（p.55）使用時は設定できません。

測光方式を変える

撮影シーンにあわせて、測光方式（明るさを測る特性）を変えられます。

1 測光方式を選ぶ

- ［FUNC.］をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして［◉］を選び、タッチします。

2 項目を選ぶ

- 設定したい項目をタッチして選びます。
- もう一度、選んだ項目をタッチして設定します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

◉ 評価測光	逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じて、被写体が常に適正露出になるように自動補正します。
[ ] 中央部重点平均測光	画面中央部に重点をおいて、画面全体を平均的に測光します。
[•] スポット測光	画面中央に表示される［[ ]］（スポット測光枠）の範囲のみを測光します。なお、AFフレームモードが［一点］のときは、スポット測光枠はAFフレームに連動します。

AEロックで撮る

露出を固定して撮影したり、ピントと露出を個別に設定して撮影することもできます。
AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略です。

1 露出を固定する

- 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししたまま、画面下部（左の画面の枠内）をタッチします。
- ▶［AEL］が表示され、露出が固定されます。
- シャッターボタンから指を離してもう一度画面をタッチすると、［AEL］が消えて解除されます。

2 構図を決めて撮影する

FEロックで撮る

ストロボ撮影時の露出を、AEロック撮影と同様に固定できます。
FEは、Flash Exposure（フラッシュエクスポージャー）の略です。

1 ［⚡］を選ぶ（p.83）

2 ストロボ露出を固定する

- 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししたまま、画面下部（左の画面の枠内）をタッチします。
- ▶ストロボが発光し、［FEL］が表示され、ストロボ発光量が記憶されます。
- シャッターボタンから指を離してもう一度画面をタッチすると、［FEL］が消えて解除されます。

3 構図を決めて撮影する

スローシンクロで撮る

人などの主被写体は、ストロボが発光することで明るく撮影され、ストロボの光が届かない背景は、シャッタースピードを遅くすることで暗くなるのを軽減することができます。

1 [⚡★] を選ぶ

- [⚡A] をタッチしたあと、[⚡★] をタッチします。
- もう一度 [⚡★] をタッチして設定します。
- ▶ 設定されると [⚡★] が表示されます。

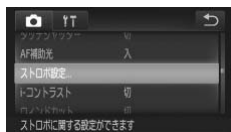
2 撮影する

- ストロボが光っても、シャッター音が鳴り終わるまでは主被写体が動かないようにしてください。

手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、[手ブレ補正] を [切] にして撮影することをおすすめします（p.165）。

上記の画面で [⇄] をタッチして項目を選ぶこともできます。

赤目自動補正

ストロボ撮影時に目が赤く写る現象を、自動補正して撮影できます。

1 ［ストロボ設定］を選ぶ

● ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［📷］タブの［ストロボ設定］を選び、タッチします。

2 設定する

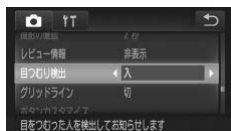
● ［赤目自動補正］を選び、◀か▶をタッチして［入］を選びます。

▶ 設定されると［◎］が表示されます。

化粧などで目の周りが赤いときは、目以外を補正することがあります。

撮影した画像を補正することもできます（p.138）。

目をつむった人を確認する

撮影時に目をつむった可能性のある人を検出したときは、[ ] を表示してお知らせします。

1 ［目つむり検出］を選ぶ

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［ ］タブの［目つむり検出］を選び、◀か▶をタッチして［入］を選びます。

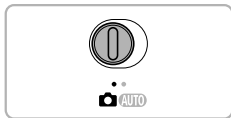
2 撮影する

- ▶ 目をつむった人を検出したときは、枠と［ ］が表示されます。

- ［ ］［ ］で撮影枚数を2枚以上に設定したときは、最後に撮影した画像でのみ動作します。
- ［ ］［ ］［ ］では設定できません。

6

動画のいろいろな機能を使ってみよう

この章では、1章の「動画を撮る」「動画を見る」の応用編として、さらにいろいろな機能を使って動画を撮る、見る方法について説明しています。

- モードスイッチが📷になっていることを前提に説明しています。
- 章の後半で説明している動画の再生や編集は、▶ ボタンを押して、再生モードになっていることを前提に説明しています。

いろいろな動画を撮る

静止画と同じように、カメラが自動的に撮影シーンに最適な設定を行ったり、いろいろな効果をつけて動画を撮影することができます。

1 撮影モードを選ぶ

- p.62 の手順 1 ～ 2 の操作で撮影モードを選びます。

2 撮影する

- ［●］をタッチします。
- ▶ 撮影モードや動画の画質（p.108）によっては、画面左右に黒帯が表示されます。この部分は撮影できません。
- ［■］をタッチすると撮影が終わります。

	ポートレート	p.62
	ジオラマ風	p.105
	モノクロ	p.69
	極彩色	p.65
	オールドポスター	p.65
	ワンポイントカラー	p.70

	スイッチカラー	p.71
	ビーチ	p.63
	新緑／紅葉	p.63
	スノー	p.64
	打上げ花火	p.64

その他の撮影モード

［ ］［ ］モードでは、次のような動画が撮影できます。

iFrame動画	iFrame＊1に対応したソフトウェア＊2や機器での編集に適した動画が撮影できます。 記録画素数は［1280］（p.108）に固定されます。
ハイスピード動画	動きの速い被写体を撮影し、スローモーション再生することができます（p.106）。

＊1 Apple社が提唱する動画タイプです。

＊2 付属のソフトウェアを使うと、iFrame動画の編集や保存などを高速に行うことができます。

- 上記の表以外の撮影モードで［●］をタッチしても、動画が撮影できます。
- あらかじめ設定したFUNC.メニューや撮影メニューの一部が、動画撮影時の設定にあわせて自動的に変わることがあります。
- ［ ］［ ］モードでも、動画撮影中以外にシャッターボタンを押すと静止画が撮影できます。

ミニチュア模型のような動画を撮る（ジオラマ風）

ミニチュア模型が動いているような動画が撮影できます。
画面上下の「ぼかす範囲」と「再生時の速さ」を選んで撮影すると、再生時には風景の中の人やものが早送りで動くので、ミニチュア模型のように見えます。なお、音声は録音されません。

1 ［🎬］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［🎬］を選びます。
- ▶ 画面に白い枠（ぼかさない範囲）が表示されます。

2 ピントが合う位置と範囲を指定する

- ピント位置を変えるときは、画面をタッチします。

- ピントの範囲を変えるときは、［M］をタッチして、［S］［M］［L］のいずれかをタッチして選び、［↩］をタッチします。

3 再生時の速さを選ぶ

- ［10x］をタッチして、［5x］［10x］［20x］のいずれかをタッチして倍速（速さ）を選び、［↩］をタッチします。

4 撮影する

- ［●］をタッチします。
- ［■］をタッチすると撮影が終わります。

倍速と再生時間の目安（動画を1分間撮影したとき）

倍速	再生時間
5x	約12秒
10x	約6秒
20x	約3秒

- 画質は、縦横比で［4:3］を選んだときは［640］に、［16:9］を選んだときは［1280］に固定されます（p.57）。
- 手順2の画面で［］をタッチすると枠が縦になり、画面をタッチして位置を変えられます。もう一度［］をタッチすると枠が横に戻ります。
- カメラを縦位置で構えると、枠の向きが変わります。
- シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがあるので、事前に試し撮りをすることをおすすめします。

ハイスピード動画を撮る

動きの速い被写体を撮影し、スローモーション再生することができます。なお、音声は録音されません。

1 ［］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［］を選びます。

2 フレームレートを選ぶ

- ［FUNC.］をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして［240］を選び、タッチします。
- 項目を選んでタッチします。

3 撮影する

- ［●］をタッチします。
- ▶ 撮影時間に連動したバーが表示されます。なお、撮影できる時間は、最長約30秒です。
- ［■］をタッチすると撮影が終わります。

フレーム数と再生時間（30秒間撮影したとき）

フレーム数	再生時間
240フレーム/秒	約4分
120フレーム/秒	約2分

ハイスピード動画で撮った動画を見る

- p.35の手順1～3の操作で再生すると、スローモーション再生されます。
- ［ ］モードで撮影した動画は、付属のソフトウェアを使うと、再生速度を変えて見ることができます。「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

- 記録画素数は、［240］のときは［320］（320 x 240画素）に、［120］のときは［640］に固定されます。
- 撮影中はズームレバーを操作しても、ズームできません。
- ピント、露出、色あいは［●］をタッチしたときに固定されます。

ウィンドカットを使う

風が強いときに発生する雑音を低減できます。ただし、風がない場所で録音したときは、不自然な音になることがあります。

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［ ］タブの［ウィンドカット］を選び、◀か▶をタッチして［入］を選びます。

画質を変える

3種類の画質から選べます。

1 画質を選ぶ

- ［FUNC.］をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして［1920］を選び、タッチします。

2 項目を選ぶ

- 設定したい項目をタッチして選びます。
- もう一度、選んだ項目をタッチして設定します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

画質と1枚のカードに撮影できる時間

画質	記録画素数 フレーム数	内容	カード	
			4 GB	16 GB
1920	1920 x 1080画素 24フレーム/秒	Full HD（フルハイビジョン）画質で撮影できます。	約14分34秒	約59分40秒
1280	1280 x 720画素 30フレーム/秒	HD（ハイビジョン）画質で撮影できます。	約20分43秒＊1	約1時間24分54秒＊2
640	640 x 480画素 30フレーム/秒	SD（スタンダード）画質で撮影できます。	約43分43秒	約2時間59分3秒

＊1 iFrame動画（p.104）では、約13分35秒
＊2 iFrame動画（p.104）では、約55分38秒

- 当社測定条件によるものです。
- 一度の撮影で動画の容量が 4 GB になるか、撮影時間が［1920］［1280］では約 10 分、［640］では約1時間になると、自動的に撮影が終わります。
- カードによっては、連続撮影時間に満たなくても、撮影が終わることがあります。SDスピードクラス6以上のカードを使用することをおすすめします。

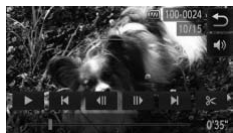
［640］では、画面左右に黒帯が表示されます。この部分は撮影できません。

その他の撮影機能の操作方法

次の機能は、静止画と同じ操作方法で使えます。ただし、撮影モードによっては設定できなかったり、設定した内容が反映されないことがあります。

- **被写体を拡大する**
  撮影中のズーム操作音は記録されます。
- **セルフタイマーを使う（p.55）**
  撮影枚数は設定できません。
- **明るさを変える**
  「明るさを変える（露出補正）」（p.83）の操作で明るさを変え、「AEロックで撮る」（p.99）の操作で露出を固定したあと、［●］をタッチします。
- **色あいを調整する（ホワイトバランス）（p.84）**
- **画像の色調を変える（マイカラー）（p.89）**
- **近くの被写体を撮る（マクロ撮影）（p.91）**
- **遠くの被写体を撮る（遠景撮影）（p.91）**
- **AFロックで撮る（p.97）**
- **AEロックで撮る（p.99）**
- **AF補助光（ランプ）を切る（p.163）**
- **グリッドラインを表示する（p.164）**
- **手ブレ補正の設定を変える（p.165）**
- **アイコンの配置を変える（ボタンカスタマイズ）（p.166）**

編集する

撮影した動画の前後を削除できます。

1 編集範囲を指定する

- 動画再生中に画面をタッチして動画操作パネルを表示します。
- ［◀||］、［||▶］、スクロールバーをタッチして基準になるフレームを表示します。
- ▶ 編集できるところで［✂］が［✂］に変わります。

2 [✂] または [✂] をタッチする

▶ [表示シーンを基準に削除します] が表示されます。

● [✂] が表示されているときにタッチしても、[前部を削除] では1つ左側の [✂] 位置よりも前部、[後部を削除] では1つ右側の [✂] 位置よりも後部が削除されます。

3 削除する範囲を選ぶ

● [前部を削除] または [後部を削除] をタッチします。

● [前部を削除] では、表示しているシーンより前の部分が削除されます。

● [後部を削除] では、表示しているシーンより後ろの部分が削除されます。

4 編集した動画を保存する

● [新規保存] をタッチします。

▶ 別動画として保存されます。

● キャンセルするときは [中止] をタッチします。

● 編集範囲を指定しなおすときは [⮌] をタッチします。

- 手順4で [上書き保存] を選んだときは、編集内容が上書きされるため、編集前の動画は残りません。
- カードの空き容量が足りないときは、[上書き保存] しか選べません。
- 動画の保存中にバッテリーがなくなると、保存できないことがあります。
- 編集するときは、フル充電されたバッテリーかACアダプターキット（別売）（p.203）を使うことをおすすめします。

7

いろいろな再生と編集機能を使ってみよう

この章では、いろいろな画像の再生方法や編集方法について説明しています。

- ▶ボタンを押して、再生モードにしてから操作してください。

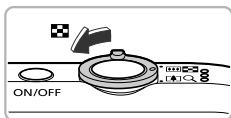
- パソコンで編集した画像やファイル名を変えた画像、このカメラ以外で撮影した画像は、再生や編集ができないことがあります。
- 編集機能（p.133～138）は、カードに空き容量がないと使えません。

画像を素早く探す

インデックス表示で画像を探す

複数の画像を一覧で表示して、目的の画像を素早く探せます。

1 インデックス表示にする

- ［▦］をタッチしたあと、表示する枚数をタッチして選びます。

▶ インデックス表示になります。

- ズームレバーを▦側に押すごとに、表示される画像の数が増えます。
- ズームレバーをQ側に押すごとに、表示される画像の数が減ります。

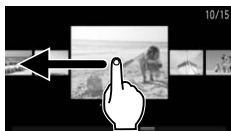
2 表示画像を切り換える

- 画面を上下方向にドラッグすると、指の動きに合わせて表示が切り換わります。

3 画像を選ぶ

- 画像をタッチして選び、もう一度タッチすると、タッチした画像が1枚表示になります。
- 画面を左右方向にドラッグしてオレンジ色の枠を移動させ、ズームレバーをQ側へ押したままにすることでも、1枚表示にできます。

画像を素早く切り換えて探す

画面をドラッグして、画像を一列に表示しながら素早く画像を探せます。また、日付ごとにジャンプすることもできます（スクロール再生）。

画像を選ぶ

- 1枚表示のときに、左右方向にドラッグすると画像が切り換わります。
  連続して素早くドラッグすると左の画面が表示されます（スクロール再生）。
  この状態で、左右方向にドラッグして画像を選びます。
- 中央の画像をタッチすると1枚表示に戻ります。

- スクロール再生中に画面を上下方向に素早くドラッグすると、日付ごとにジャンプして画像を探せます。

この効果を使わないようにするには、［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして［▶］タブの［スクロール再生］を選び、◀か▶をタッチして［切］を選びます。

ムービーダイジェストモードで作成された動画を見る

［ ］モード（p.72）で作成された動画を、日付で選んで見ることができます。

1 ［ ］を選ぶ

- ［FUNC.］をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして［ ］を選び、タッチします。

2 再生する動画の日付を選ぶ

- 日付をタッチして選びます。

3 再生する

- 手順2で選んだ日付をタッチします。
- ▶ 動画が再生されます。

条件で絞り込んで画像を表示する

カード内に多くの画像があるときは、条件を指定して表示する画像を絞り込むことができます。この状態で画像をまとめて保護したり（p.125）、消したり（p.127）することができます。

1 [🝖] を選ぶ

- [FUNC.] をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして [🝖] を選び、タッチします。

2 条件を選ぶ

- 設定したい項目をタッチして選びます。
- 右側のメニューを上下方向にドラッグすると表示される項目もあります。
- もう一度、選んだ項目をタッチします。

3 絞り込み再生で見る

- 表示する対象をタッチして選び、もう一度タッチします（[★] のときを除く）。
- ▶ 絞り込み再生になり、黄色の枠が表示されます。
- 画面を左右方向にドラッグすると選んだ対象の画像のみが表示されます。
- 手順 2 で［ ］を選ぶと絞り込み再生が解除されます。

絞り込み条件

★	お気に入り	お気に入り設定した画像（p.129）を表示
⊙	日付	指定した撮影日の画像を表示
	マイカテゴリー	指定したカテゴリーの画像（p.131）を表示
	静止画/動画	静止画、動画、［ ］モードで作成された動画のいずれかを表示

? 対象が選べない？

目的の条件と一致する画像がないときは、条件を選べません。

絞り込み再生について

絞り込み再生の状態（手順3）で、「画像を素早く探す」（p.112）、「スライドショーで見る」（p.116）、「拡大して見る」（p.119）などで、絞り込んだ画像を見ることができます。また、「保護する」（p.125）、「まとめて消す」（p.127）、「印刷指定（DPOF）」（p.147）、「フォトブック指定」（p.151）で「すべての絞り込み対象画像」を指定すると、絞り込んだ画像をまとめて操作することができます。
ただし、カテゴリーを変えたり（p.131）、画像を編集して新規保存（p.133）などを行うとメッセージが表示され、絞り込み再生が解除されます。

スライドショーで見る

カードに記録されている画像を自動的に再生します。画像1枚あたりの表示時間は約3秒です。

1 ［⊕］を選ぶ

- ［FUNC.］をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして［⊕］を選び、タッチします。

2 効果を選ぶ

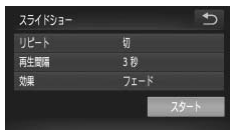
- 設定したい効果をタッチして選びます。
- もう一度、選んだ項目をタッチして設定します。
- ▶［画像読み込み中］が数秒間表示されたあと、スライドショーがはじまります。
- 絞り込み再生中（p.115）は、絞り込み対象の画像のみが再生されます。
- 画面をタッチすると、終了します。

- スライドショー中にカメラを指で軽くたたく（p.31）と、画像を切り換えることができます（アクティブ再生）。
- スライドショー中に節電機能（p.50）は働きません。
- タッチアクションでスライドショーをはじめることもできます（p.123）。

設定を変える

スライドショーの繰り返しや再生画像1枚あたりの表示時間、切り換わるときの効果を変えられます。画像を切り換えたときの効果（再生効果）は6種類から選べます。

1 ［スライドショー］を選ぶ

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［▶］タブの［スライドショー］を選び、タッチします。

2 設定する

- 項目をタッチして選び、◀か▶をタッチして設定します。
- ［スタート］をタッチすると、指定した設定でスライドショーがはじまります。
- 再生中に画面をタッチすると、メニュー画面に戻ります。

［効果］で［バブル］を選んだときは、［再生間隔］は変えられません。

ピント位置を確認する（フォーカスチェッカー）

撮影時にピント合わせをしたAFフレームの位置を、拡大表示することができます。

1 [DISP.]をタッチして、ピント位置確認表示にする（p.43）

- ▶ ピント合わせを行ったAFフレームの位置に、白のフレームが表示されます。
- ▶ 再生時に検出された顔の位置には、灰色のフレームが表示されます。
- ▶ オレンジ色のフレームの箇所が拡大表示されます。

2 拡大表示する箇所を変える

- ● 右下の画像をタッチするか、ズームレバーをQ側に一度押します。
- ▶ 左の画面が表示されます。
- ● 複数のフレームが表示されているときは、[□→□]をタッチすると別のフレームに移動します。

3 拡大率や表示位置を変える

- ● ズームレバーを操作したり、右下の拡大表示された画像や［⊕］［⊖］をタッチすると、表示倍率が変わります。
- ● 右下の画像をドラッグすると、表示位置が変わります。
- ● [⮌]か左上の画像をタッチすると、手順1に戻ります。

動画ではピント位置の確認はできません。

拡大して見る

表示位置の目安

拡大する

- 画面をタッチすると拡大表示になり、[ ] と [ ] が表示されます。
- 繰り返しタッチすると、タッチした位置を中心に最大約10倍まで拡大できます。
- [ ] や [ ] をタッチすることでも、拡大、縮小ができます。[ ] や [ ] をタッチしたままにすると、連続して拡大、縮小ができます。
- 画面をドラッグすると、表示位置が移動します。
- [ ] をタッチすると1枚表示に戻ります。
- カメラを指で軽くたたく（p.31）と、拡大したまま画像を切り換えることができます（アクティブ再生）。

- ズームレバーを Q 側に押すことでも拡大表示でき、押し続けると最大10倍まで拡大できます。また、 側に押すと縮小表示になり、押し続けると1枚表示に戻ります。
- 動画では拡大表示できません。

グループ化された画像を1枚ずつ見る

［ ］モード（p.79）で撮影された画像はグループ化されて表示されますが、グループ内の画像を1枚ずつ見ることもできます。

1 グループ化された画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして［ ］が表示された画像を選び、［ ］をタッチします。

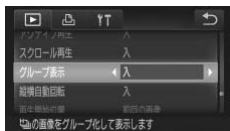
2 グループ内の画像を1枚ずつ見る

- 画面を左右方向にドラッグするとグループ内の画像のみが表示されます。
- ［ ］をタッチするとグループ再生が解除されます。

グループ再生について

グループ再生の状態（手順2）で［FUNC.］をタッチすると表示されるメニューの機能を使ったり、「画像を素早く探す」（p.112）、「拡大して見る」（p.119）こともできます。また、「保護する」（p.125）、「まとめて消す」（p.127）、「印刷指定（DPOF）」（p.147）、「フォトブック指定」（p.151）で「グループ内の全画像」を指定すると、グループ内のすべての画像をまとめて操作することができます。

グループ化を解除する

［ ］モードで撮影された画像のグループ化を解除して、1枚ずつの画像として表示することができます。

1 ［グループ表示］を選ぶ

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［▶］タブの［グループ表示］を選び、タッチします。

2 設定する

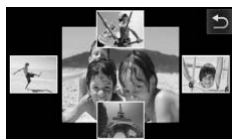
- ◀か▶をタッチして［切］を選びます。
- ［↩］をタッチすると設定され、1 枚表示に戻ります。
- ▶［ ］モードで撮影したすべての画像のグループ化が解除されて、1枚ずつの画像として表示されます。
- 元に戻すときは、上記の操作で［入］を選びます。

グループ化された画像を1枚ずつ見ているとき（p.120）は、グループ化を解除できません。

いろいろな画像を表示する（連想再生）

表示している画像をもとに、4つの画像をカメラが選んで表示します。その中から1つ選ぶとさらに4つの画像が表示されるので、思いがけない順番の再生が楽しめます。いろいろなシーンの画像をたくさん撮ったあとなどにおすすめです。

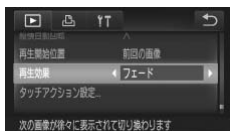
1 ［ ］を選ぶ

- ［FUNC.］をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして［ ］を選び、タッチします。
- ▶ 4枚の画像が候補として表示されます。

2 画像を選ぶ

- 次に見たい画像をタッチして選びます。
- ▶ 選んだ画像が画面中央に表示され、次の4枚の候補が表示されます。
- 画面中央の画像をタッチすると、中央の画像が画面いっぱいに表示されます。もう一度タッチするともとの表示に戻ります。
- ［ ］をタッチすると1枚表示に戻ります。

- このカメラで撮影した静止画だけが連想再生の対象になります。
- 次のときは［ ］を使えません。
  - このカメラで撮影した静止画が50枚に満たないとき
  - 対象の画像以外を表示しているとき
  - 表示する画像を絞り込んでいるとき

画像を切り換えたときの効果を変える

1枚表示で画像を切り換えたときの見えかた（効果）を、3種類から選べます。

［再生効果］を選ぶ

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［▶］タブの［再生効果］を選び、◀か▶をタッチして効果を選びます。

タッチアクションでかんたんに操作する

1枚表示のとき、特定の4方向に画面をドラッグすると、それぞれの方向に登録してある機能を素早く、かんたんに呼び出すことができます。

↰ に登録されている機能を使う

- 画面を図のようにドラッグします。
- ▶ ↰ に登録されている機能が呼び出されます。

- ↱ ↲ ↳ に登録されている機能も同じように画面をドラッグして呼び出すことができます。
- タッチアクションに登録されている機能は変えられます。

タッチアクションの機能を変える

それぞれの方向のドラッグ操作に登録されている機能を、自分好みに変えて使いやすくすることができます。

1 ［タッチアクション設定］を選ぶ

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［▶］タブの［タッチアクション設定］を選び、タッチします。

2 タッチ操作に機能を登録する

- 画面を上下方向にドラッグして、タッチ操作の方向を選びます。
- ◀か▶をタッチして、タッチ操作に登録する機能を選びます。

登録できる機能

お気に入り	画像をお気に入りに設定したり、解除したりします。
次のお気に入り画像	次のお気に入り設定された画像を表示します。
前のお気に入り画像	前のお気に入り設定された画像を表示します。
次の日の画像	次の日に撮影した最初の画像を表示します。
前の日の画像	前の日に撮影した最初の画像を表示します。
連想再生	連想再生を開始します。
スライドショー	スライドショーを開始します。
消去	画像を消去します。
保護	画像を保護したり、解除したりします。
回転	画像を回転します。

保護する

大切な画像をカメラの消去機能（p.32、127）で誤って消さないよう、保護することができます。

保護する

- ［FUNC.］をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして［⊶］を選び、タッチします。
- ▶［⊶］が表示されます。
- 解除するときは、もう一度［FUNC.］をタッチしたあと、画面を上下方向にドラッグして［⊶］を選び、タッチします。

カードを初期化（p.24、155）すると、保護された画像も消えます。

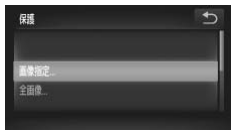
保護された画像は、カメラの消去機能では消えません。画像を消すときは、保護を解除してください。

メニューから操作する

1 ［保護］を選ぶ

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［▶］タブの［保護］を選び、タッチします。

2 指定方法を選ぶ

- 指定方法をタッチします。
- ［↩］をタッチするとメニュー画面に戻ります。

1枚ずつ指定する

1 ［画像指定］を選ぶ

- p.125 の手順 2 の操作で［画像指定］をタッチします。

2 画像を選び指定する

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、画面をタッチします。
- ▶［✓］が表示されます。
- もう一度画面をタッチすると解除され、［✓］が消えます。
- 複数指定するときは、上記の操作を繰り返します。

3 保護する

- ［↩］をタッチすると確認画面が表示されます。
- ［OK］をタッチします。
- ▶ 保護されます。

手順3の操作をする前に、撮影モードに切り換えたり電源を切ったときは、保護されません。

複数指定するときは、画面左上の［▦］をタッチしたあと、指定する画像をタッチして選ぶこともできます。

すべての画像を指定する

1 ［全画像］を選ぶ

● p.125の手順2の操作で［全画像］をタッチします。

2 保護する

● ［保護］をタッチします。

手順2で［解除］を選ぶと、選んだ画像の保護をまとめて解除することができます。

まとめて消す

画像を選んでまとめて消すことができます。消した画像は復元できないので、十分に確認してから消してください。保護された画像（p.125）は消えません。

指定方法を選ぶ

1 ［消去］を選ぶ

● ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［▶］タブの［消去］を選び、タッチします。

2 指定方法を選ぶ

● 指定方法をタッチします。

● ［⮌］をタッチするとメニュー画面に戻ります。

1枚ずつ指定する

1 [画像指定] を選ぶ

- p.127の手順2の操作で[画像指定]をタッチします。

2 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、画面をタッチします。
- ▶ [✓] が表示されます。
- もう一度画面をタッチすると解除され、[✓] が消えます。
- 複数指定するときは、上記の操作を繰り返します。

3 消す

- [↩] をタッチすると確認画面が表示されます。
- [OK] をタッチします。

複数指定するときは、画面左上の[▦]をタッチしたあと、指定する画像をタッチして選ぶこともできます。

すべての画像を指定する

1 [全画像] を選ぶ

- p.127の手順2の操作で [全画像] をタッチします。

2 消す

- [OK] をタッチします。

お気に入り設定をする

お気に入りを設定すると、設定した画像だけをかんたんに分類できます。設定した画像だけを絞り込んで見る、保護する、消すの操作ができます（p.115）。

設定する

- [FUNC.]をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして［★］を選び、タッチします。

▶［★］が表示されます。

- 解除するときは、もう一度［FUNC.］をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして［★］を選び、タッチします。

メニューから操作する

1 ［お気に入り］を選ぶ

- [FUNC.]、[MENU]の順にタッチして、[▶]タブの［お気に入り］を選び、タッチします。

2 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、画面をタッチします。

▶［✓］が表示されます。

- もう一度画面をタッチすると解除され、［✓］が消えます。
- 複数指定するときは、上記の操作を繰り返します。

3 設定する

- [⮌] をタッチすると確認画面が表示されます。
- [OK] をタッチします。

手順3の操作をする前に、撮影モードに切り換えたり電源を切ったときは、お気に入りが設定されません。

- Windows 7またはWindows Vistaをお使いのときは、お気に入り設定した画像をパソコンに取り込むと、評価が3（★★★☆☆）に設定されます（動画を除く）。
- タッチアクションでお気に入りを設定することもできます（p.123）。
- 複数指定するときは、画面左上の［▦］をタッチしたあと、指定する画像をタッチして選ぶこともできます。

画像を分類する（マイカテゴリー）

画像を種類別に分類できます。また、種類別に絞り込んで表示した状態（p.115）で次の機能を使うと、分類した画像をまとめて操作することができます。

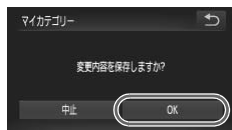
- スライドショーで見る（p.116）、保護する（p.125）、まとめて消す（p.127）、印刷指定（DPOF）（p.147）、フォトブック指定（p.151）

- 撮影時には、シーンに応じて自動で分類されます。
  - [人物]：顔が検出された画像、または［ ］［ ］モードで撮影した画像
  - [風景]：AUTOモード時に［ ］［ ］［ ］と判別された画像、または［ ］［ ］モードで撮影した画像
  - [イベント]：［ ］［ ］［ ］モードで撮影した画像
- 手順2の画面は、［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして［▶］タブの［マイカテゴリー］をタッチすることでも表示できます。

1 ［ ］を選ぶ

- ［FUNC.］をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして［ ］を選び、タッチします。

2 画像を選び指定する

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選びます。
- 分類したい項目をタッチします。
- ▶ 指定されると項目がオレンジ色で表示されます。
- もう一度タッチすると解除され、白色になります。
- 複数指定するときは、上記の操作を繰り返します。

3 設定する

- ［ ］をタッチすると確認画面が表示されます。
- ［OK］をタッチします。

手順3の操作をする前に、撮影モードに切り換えたり電源を切ったときは、マイカテゴリーが設定されません。

回転する

画像の向きを変えて保存することができます。

1 [回転アイコン] を選ぶ

- [FUNC.] をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして [回転アイコン] を選び、タッチします。

2 回転する

- [↶] か [↷] をタッチすると指定した方向に90度単位で回転します。
- [戻るアイコン] をタッチして設定を終えます。

- 画質が [1920] [1280] の動画は回転できません。
- 手順2の画面は、[FUNC.]、[MENU] の順にタッチして [▶] タブの [回転] をタッチすることでも表示できます。
- [縦横自動回転] が [切] のときは回転できません (p.168)。

画像を小さくする（リサイズ）

撮影した画像を小さな記録画素数にして、別画像として保存できます。

1 ［リサイズ］を選ぶ

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［▶］タブの［リサイズ］を選び、タッチします。

2 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、［OK］をタッチします。

3 大きさを選ぶ

- ［M2］［S］［XS］のいずれかをタッチしたあと、［OK］をタッチします。
- ▶［新規保存しますか?］が表示されます。

4 新規保存する

- ［OK］をタッチします。
- ▶別画像として保存されます。

5 画像を確認する

- ［↩］をタッチすると［保存した画像を表示します］が表示されます。
- ［はい］をタッチします。
- ▶保存した画像が表示されます。

- 撮影した画像の記録画素数よりも大きくはできません。
- 手順3で［XS］にした画像は、編集できません。
- 動画は編集できません。

画像を切り抜く（トリミング）

撮影した画像の必要な部分を切り抜き、別画像として保存できます。

1 ［トリミング］を選ぶ

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［▶］タブの［トリミング］を選び、タッチします。

2 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、［OK］をタッチします。

切り抜き範囲の表示

切り抜き後の記録画素数

3 切り抜く範囲を調整する

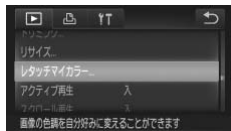
- ▶ 画像を切り抜く範囲が枠で表示されます。
- ▶ 左上にもと画像、右下に切り抜き後の画像が表示されます。
- ズームレバーを左右に動かしたり、右下の画像や［⊕］［⊖］をタッチすると、枠の大きさが変えられます。
- 左上の画像や右下の画像をドラッグすると枠の位置が移動できます。
- ［⟲］をタッチすると、枠の縦横が変えられます。
- 顔が検出された画像では、左上の画面の顔の位置に灰色の枠が表示されます。［☺］をタッチすると別の枠に切り換わり、枠を中心にトリミングできます。
- ［新規保存］をタッチします。
- ▶ ［新規保存しますか？］が表示されます。

4 新規保存して画像を確認する

- p.133の手順4～5の操作を行います。

- 記録画素数が［ S ］の画像（p.59）や、リサイズした［ XS ］の画像（p.133）は、編集できません。
- トリミングできる画像の縦横比率は編集前と同じです。
- トリミングした画像の記録画素数は、トリミング前の画像より小さくなります。
- 動画は編集できません。

画像の色調を変える（レタッチマイカラー）

画像の色調を変え、別画像として保存できます。各項目の内容はp.89を参照してください。

1 ［レタッチマイカラー］を選ぶ

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［▶］タブの［レタッチマイカラー］を選び、タッチします。

2 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、［OK］をタッチします。

3 項目を選ぶ

- 項目をタッチします。
- ◀か▶をタッチすると、表示されていない項目が表示されます。
- ［OK］をタッチします。
- ▶［新規保存しますか?］が表示されます。

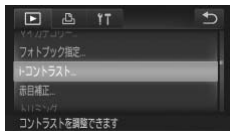
4 新規保存して画像を確認する

- p.133の手順4～5の操作を行います。

同じ画像に対して色調を繰り返し変えると、画質が徐々に低下したり、思いどおりの色にならないことがあります。

- 撮影時のマイカラー（p.89）と色調が若干異なることがあります。
- 動画の色調は変えられません。

明るさを補正する（i-コントラスト）

人の顔や背景など、一部が暗く撮影された画像は、その部分を検出し、最適な明るさに自動補正します。また、画像全体で明暗差が小さい画像は、くっきりした印象となるように自動補正します。補正方法は4種類から選べ、別画像として保存できます。

1 ［i-コントラスト］を選ぶ

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［▶］タブの［i-コントラスト］を選び、タッチします。

2 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、［OK］をタッチします。

3 項目を選ぶ

- ◀か▶をタッチして項目を選び、［OK］をタッチします。
- ▶［新規保存しますか?］が表示されます。

4 新規保存して画像を確認する

- p.133の手順4～5の操作を行います。

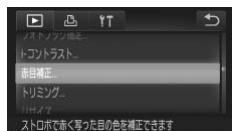
- 画像によっては、画像が粗くなったり、正しく補正されないことがあります。
- 同じ画像に対して補正を繰り返すと、画像が粗くなることがあります。

［自動］では思いどおりに補正されない？

［弱］［中］［強］のいずれかを選んで補正します。

動画の補正はできません。

赤目を補正する

目が赤く撮影されてしまった画像の赤目部分を自動的に補正して、別画像として保存できます。

1 ［赤目補正］を選ぶ

● ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［▶］タブの［赤目補正］を選び、タッチします。

2 画像を選んで補正する

● 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、［OK］をタッチします。

▶ 検出された赤目部分が補正され、補正した部分に枠が表示されます。

●「拡大して見る」（p.119）の操作で画像を拡大／縮小できます。

3 新規保存して画像を確認する

● ［新規保存］をタッチします。

▶ 別画像として保存されます。

● p.133の手順5の操作を行います。

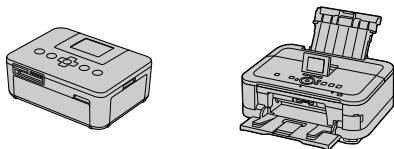
- 画像によっては、正しく補正されないことがあります。
- 手順3で［上書き保存］を選んだときは、補正内容で上書きされるため、補正前の画像は残りません。
- 保護されている画像は上書き保存できません。

動画の補正はできません。

8

印刷してみよう

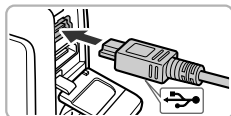
この章では、撮影した画像を別売のキヤノン製PictBridge対応プリンターで印刷する方法や、印刷する画像の指定方法について説明しています。

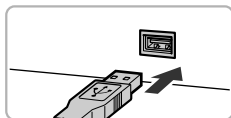
キヤノン製PictBridge対応プリンター

- ここでは、キヤノン製コンパクトフォトプリンター SELPHY CPシリーズを使って説明しています。プリンターによっては表示される画面やできることが異なります。プリンターの使用説明書もあわせて参照してください。

印刷する

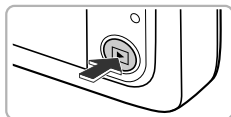
かんたん印刷

撮影した画像は、カメラとPictBridge（ピクトブリッジ）対応プリンター（別売）を付属のインターフェースケーブル（p.2）でつないで、かんたんに印刷できます。

1 カメラとプリンターの電源を切る

2 カメラとプリンターをつなぐ

- ふたを開き、ケーブルの小さい方のプラグを図の向きにして、カメラの端子にしっかりと差し込みます。
- ケーブルの大きい方のプラグをプリンターに差し込みます。プリンターとのつなぎかたについては、プリンターの使用説明書を参照してください。

3 プリンターの電源を入れる

4 カメラの電源を入れる

- ▶ボタンを押して電源を入れます。

5 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選びます。

6 [🖨] を選ぶ

- [FUNC.] をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして [🖨] を選び、タッチします。

7 印刷する

- ［印刷］をタッチします。
- ▶ 印刷がはじまります。
- 別の画像を印刷するときは、印刷が終わったあと、手順5〜6の操作を繰り返します。
- 印刷が終わったらカメラとプリンターの電源を切り、ケーブルを抜きます。

- キヤノン製 PictBridge 対応プリンター（別売）については、p.204 を参照してください。
- 一部のキヤノン製 PictBridge 対応プリンター（別売）では、インデックス印刷ができないことがあります。

印刷設定をする

1 カメラとプリンターをつなぐ

- p.140の手順1～6の操作で左の画面を表示します。

2 項目を選ぶ

- 項目を選びタッチします。

3 設定内容を選ぶ

- ◀か▶をタッチして設定内容を選びます。

ー	**印刷枚数**	印刷枚数を指定します。
	標準設定	プリンターの設定にしたがいます。
	日付	日付を入れて印刷します。
	画像番号	画像番号を入れて印刷します。
	両方	日付と画像番号の両方を印刷します。
	切	—
	標準設定	プリンターの設定にしたがいます。
	切	—
	入	撮影時の情報を使って最適な設定で印刷します。
	赤目1	赤く写った目を補正します。
トリミング	—	印刷する範囲を指定します。
用紙設定	—	用紙サイズやレイアウトなどを指定します。

画像を切り抜いて印刷する（トリミング）

画像の一部分を切り抜いて印刷することができます。

1 ［トリミング］を選ぶ

- p.142の手順1～2の操作で［トリミング］をタッチします。
- ▶ 切り抜く範囲を示す枠が表示されます。

2 切り抜く範囲を指定する

- ズームレバーを動かして枠の大きさを変えます。
- 枠をドラッグして位置を変えます。
- ［ ］をタッチすると枠が回転します。
- ［OK］をタッチして設定します。

3 印刷する

- p.141の手順7の操作で印刷します。

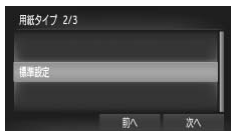
- 画像が小さすぎたり、縦横比によっては、トリミングできないことがあります。
- カメラで［日付写し込み］の指定をして撮影した画像をトリミングすると、日付が正しく印刷されないことがあります。

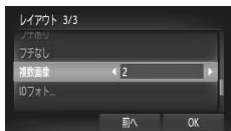
用紙サイズやレイアウトを選んで印刷する

1 ［用紙設定］を選ぶ

- p.142の手順1～2の操作で［用紙設定］をタッチします。

2 用紙サイズを選ぶ

- 項目をタッチして選び、［次へ］をタッチします。

3 用紙タイプを選ぶ

- 項目をタッチして選び、［次へ］をタッチします。

4 レイアウトを選ぶ

- 画面を上下方向にドラッグしてレイアウトを選びます。
- ［複数画像］を選んだときは、◀か▶をタッチして印刷枚数を選びます。
- ［OK］をタッチします。

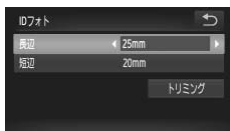
5 印刷する

レイアウトで設定できる項目

標準設定	プリンターの設定にしたがいます。
フチあり	フチをつけて印刷します。
フチなし	フチなしで印刷します。
複数画像	1枚の用紙に印刷する画像の枚数を選びます。
IDフォト	証明写真用の画像を印刷します。 記録画素数がLで、縦横比が4:3の画像にのみ指定できます。
固定サイズ	印刷する大きさを指定します。 L判、はがき、ワイドサイズでのみ指定できます。

証明写真を印刷する

1 [IDフォト] を選ぶ

- p.144の手順1～4の操作で［IDフォト］を選び、［次へ］をタッチします。

2 長辺と短辺の長さを選ぶ

- 項目をタッチして選びます。
- ◀か▶をタッチして長さを選び、[トリミング］をタッチします。

3 印刷する範囲を選ぶ

- p.143 の手順 2 の操作で印刷する範囲を選びます。

4 印刷する

動画を印刷する

1 カメラとプリンターをつなぐ

- p.140の手順1～6の操作で動画を選び、左の画面を表示します。

2 印刷方法を選ぶ

- ［ ］をタッチしたあと、◀か▶をタッチして印刷方法を選びます。

3 印刷する

動画の印刷方法

1コマ	表示されているシーンを静止画として印刷します。
連続コマ	動画から一定の間隔で抜き出したシーンを、1枚の用紙に並べて印刷します。［キャプション］を［入］にすると、フォルダ番号、画像番号、コマの経過時間を同時に印刷できます。

- 印刷中に［中止］をタッチすると、印刷を中止します。
- CP720／CP730以前のキヤノンPictBridge対応プリンターでは、［IDフォト］や［連続コマ］は指定できません。

印刷指定（DPOF）

カード内の画像から印刷したい画像や印刷枚数などを指定して、一括印刷（p.150）や写真店への印刷注文をすることができます（最大998画像）。なお、この指定方法は、DPOF（Digital Print Order Format）規格に準拠しています。

動画は指定できません。

FUNC.メニューで印刷指定する

撮影直後や画像の再生中に、FUNC.メニューで印刷指定（DPOF）ができます。

1 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選びます。

2 [凸] を選ぶ（動画は除く）

- [FUNC.] をタッチしたあと、左側のメニューを上下方向にドラッグして [凸] を選び、タッチします。

3 印刷予約をする

- ▲ か ▼ をタッチして印刷枚数を指定し、[予約する] をタッチします。

印刷内容を指定する

印刷タイプや日付、画像番号といった印刷内容を設定できます。この設定は、印刷指定したすべての画像に共通して適用されます。

1 ［印刷の設定］を選ぶ

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［凸］タブの［印刷の設定］を選び、タッチします。

2 設定する

- ▲か▼をタッチして項目を選び設定します。
- ［↰］をタッチすると設定され、メニュー画面に戻ります。

印刷タイプ	スタンダード	1枚の用紙に1枚の画像を印刷
	インデックス	1枚の用紙に縮小画像を複数印刷
	両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷
日付	入	撮影日を入れて印刷
	切	—
画像番号	入	画像番号を入れて印刷
	切	—
印刷後指定解除	入	印刷後、画像の印刷指定をすべて解除
	切	—

- プリンターまたは写真店によっては、設定した内容が反映されないことがあります。
- 他のカメラで設定したカードをこのカメラに入れると、［!］が表示されることがあります。このカメラで設定を変えると、設定済みの内容がすべて書き換えられることがあります。
- ［日付］を［入］に設定すると、お使いのプリンターによっては、日付が重複して印刷されることがあります。

- ［インデックス］に設定したときは、［日付］と［画像番号］の両方を［入］にはできません。
- 日付の並びは、［YT］タブの［日付 / 時刻］の設定内容で印刷されます（p.21）。

1枚ずつ枚数を指定する

1 ［印刷する画像を指定］を選ぶ

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［凸］タブの［印刷する画像を指定］を選び、タッチします。

2 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして、画像を選びます。
- ▶ 枚数指定ができるようになります。
- ［インデックス］では、画面をタッチします。指定されると［✓］が表示され、もう一度枠内をタッチすると解除され、［✓］が消えます。

3 枚数を設定する

- ▲か▼をタッチして枚数を指定します（最大99枚）。
- 手順2～3の操作を繰り返して、画像と枚数を指定します。
- ［インデックス］では枚数の指定ができません。手順2の操作で画像のみを選んでください。
- ［⮌］をタッチすると設定され、メニュー画面に戻ります。

すべての画像を指定する

1 ［すべての画像を指定］を選ぶ

- p.149の手順1の操作で［すべての画像を指定］を選び、タッチします。

2 印刷指定する

- ［OK］をタッチします。

すべての指定を解除する

1 ［すべての指定を解除］を選ぶ

- p.149の手順1の操作で［すべての指定を解除］を選び、タッチします。

2 指定を解除する

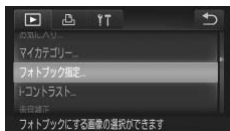
- ［OK］をタッチします。

印刷指定（DPOF）した画像を印刷する

- 印刷指定した画像（p.147 ～ 150）があるときは、カメラとPictBridge対応プリンターをつなぐと左の画面が表示されます。［すぐに印刷］をタッチすると、印刷指定した画像をかんたんに印刷できます。
- 印刷を中断して再開したときは、続きの画像から印刷されます。

フォトブック指定

カード内の画像からフォトブックに使いたい画像を指定（最大998画像）し、付属のソフトウェア（p.2）を使ってパソコンに取り込むと、指定した画像が専用のフォルダにコピーされて、インターネットでのフォトブック注文や、お使いのプリンターでの印刷をするときに便利です。

指定方法を選ぶ

1 ［フォトブック指定］を選ぶ

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［▶］タブの［フォトブック指定］を選び、タッチします。

2 設定する

- 画面を上下方向にドラッグして指定方法を選び、タッチします。
- ［↩］をタッチするとメニュー画面に戻ります。

他のカメラで設定したカードをこのカメラに入れると、［!］が表示されることがあります。このカメラで設定を変えると、設定済みの内容がすべて書き換えられることがあります。

パソコンに取り込んだあとは「ソフトウェアガイド」（p.2）やお使いのプリンターの使用説明書もあわせて参照してください。

1枚ずつ指定する

1 ［画像指定］を選ぶ

- 上記の手順2の操作で［画像指定］を選び、タッチします。

2 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、画面をタッチします。
- ▶［✓］が表示されます。
- もう一度画面をタッチすると解除され、［✓］が消えます。
- 別の画像も指定するときは、上記の操作を繰り返します。
- ［↩］をタッチすると設定され、メニュー画面に戻ります。

複数指定するときは、画面左上の［▦］をタッチしたあと、指定する画像をタッチして選ぶこともできます。

すべての画像を指定する

1 ［すべての画像を指定］を選ぶ

- p.151の手順2の操作で［すべての画像を指定］をタッチします。

2 印刷指定する

- ［OK］をタッチします。

すべての指定を解除する

1 ［すべての指定を解除］を選ぶ

- p.151の手順2の操作で［すべての指定を解除］をタッチします。

2 指定を解除する

- ［OK］をタッチします。

9

カメラの設定を自分好みに変えよう

カメラの各種設定を撮影スタイルにあわせて変えられます。
章の前半では、ふだん使う上で便利な機能について説明しています。
章の後半では、撮影機能や再生機能を目的にあわせて変える方法について説明しています。

カメラの設定を変える

メニューの［🔧］タブで設定します。ふだん使う上での便利な機能を自分好みに設定することができます（p.46）。

音を変える

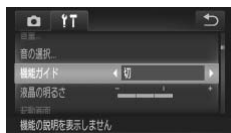
カメラの各種動作音を変えられます。

- ［音の選択］を選び、タッチします。
- 画面を上下方向にドラッグして項目を選び、◀か▶をタッチして内容を選びます。

1	オリジナルの音が登録されています。 音は変えられません。
2	オリジナルの音が登録されています。 付属のソフトウェアを使って変えられます（p.2）。

［シャッター音］を変えても、［H］モード（p.79）のシャッター音には反映されません。

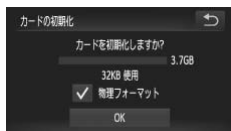
機能の説明を表示しない

機能の説明を表示しないようにすることができます。ただし、メニュー（p.46）の説明は常に表示されます。

- ［機能ガイド］を選び、◀か▶をタッチして［切］を選びます。

カードを物理フォーマット（初期化）する

［カードが異常です］のメッセージが表示されたとき、カメラが正しく動作しない、カードへの画像記録／再生時の読み出しや連続撮影速度が遅くなった、動画撮影が途中で止まるなどのときに行います。物理フォーマットをすると、カード内のすべてのデータは消され、もとに戻すことはできません。カード内の画像をパソコンにコピーするなどしてから物理フォーマットをしてください。

1 ［カードの初期化］画面を表示する

● p.24の手順1、2の操作を行います。

2 物理フォーマットをする

● ［物理フォーマット］の左側の枠をタッチして、［✓］を表示します。

● ［OK］をタッチします。

▶ 確認画面が表示されます。

● ［OK］をタッチします。

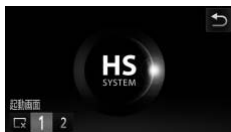
▶ 物理フォーマットがはじまります。

▶ 物理フォーマットが終わると［カードの初期化が完了しました］が表示されます。

● ［OK］をタッチします。

- 物理フォーマットはカード内の全記憶領域を初期化するため、「カードの初期化」（p.24）よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［中止］をタッチすると、初期化を中止できます。中止してもデータはすべて消去されますが、カードは問題なく使えます。

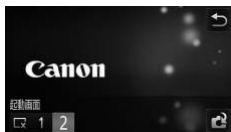
起動画面を変える

電源を入れたときに表示される起動画面を変えられます。

- ［起動画面］を選び、タッチします。
- 内容をタッチします。

	起動画面は表示されません。
1	オリジナルの画像が登録されています。画像は変えられません。
2	オリジナルの画像が登録されています。撮影した画像を登録したり、付属のソフトウェアを使って変えることができます。

撮影した画像を起動画面にする

1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。

2 ［起動画面］を選ぶ

- ［起動画面］を選び、タッチします。
- ［2］をタッチしたあと、［ ］をタッチします。

3 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、［OK］をタッチします。
- ▶［登録しますか?］が表示されます。
- ［OK］をタッチします。

起動画面を登録すると、以前の登録内容は消えます。

付属のソフトウェアで音や起動画面を登録する

付属のソフトウェアに用意されている専用の各種動作音や起動画面を、カメラに登録することができます。また、CANON iMAGE GATEWAYからダウンロードした専用の各種動作音や起動画面を、カメラに登録することもできます。詳しくは「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

画面の配色を変える

● ［配色設定］を選び、◀か▶をタッチして内容を選びます。

画像番号のつけかたを変える

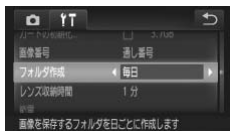
撮影した画像には、撮影した順に0001～9999の番号がつけられ、1つのフォルダに2000枚ずつ保存されます。この画像番号のつけかたを変えることができます。

● ［画像番号］を選び、◀か▶をタッチして内容を選びます。

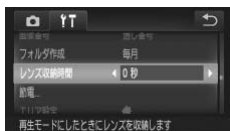
通し番号	画像番号9999の画像が撮影／保存されるまでは、カードを変えて撮影しても連番になります。
オートリセット	カードを変えたり、フォルダが新しく作られたときは、画像番号が0001に戻ります。

- ［通し番号］［オートリセット］とも、変えるカードに画像が入っているときは、その画像番号の続き番号になることがあります。画像番号0001の画像から順に保存したいときは、初期化（p.24）したカードをお使いください。
- フォルダ構造や保存される画像については、「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

フォルダを撮影日ごとに作る

撮影した画像を保存するフォルダは月ごとに作成されますが、撮影日ごとに作成することもできます。

- ［フォルダ作成］を選び、◀か▶をタッチして［毎日］を選びます。
- 撮影日ごとに新しいフォルダが作られ、撮影した画像が保存されます。

レンズ収納時間を変える

撮影状態から▶ボタンを押して約1分経過すると、安全のためレンズが収納されます（p.30）。▶ボタンを押すとすぐにレンズが収納されるようにしたいときは、収納時間を［0秒］に設定します。

- ［レンズ収納時間］を選び、◀か▶をタッチして［0秒］を選びます。

節電機能を切る

節電機能（p.50）を［切］にできます。バッテリーの消耗を防ぐため、通常は［入］をおすすめします。

- ［節電］を選び、タッチします。
- 画面を上下方向にドラッグして［オートパワーオフ］を選び、◀か▶をタッチして［切］を選びます。
- ［切］にすると節電機能は働きません。電源の切り忘れに注意してください。

画面が消えるまでの時間を変える

節電機能（p.50）が働いて、画面が自動的に消えるまでの時間を設定できます。なお、［オートパワーオフ］が［切］のときも働きます。

- ［節電］を選び、タッチします。
- 画面を上下方向にドラッグして［ディスプレイオフ］を選び、◀か▶をタッチして時間を選びます。
- バッテリーの消耗を防ぐため、通常は［1分］以下をおすすめします。

世界時計を使う

海外へ旅行するときなど、あらかじめ訪問先（旅行先）のエリアを登録しておくと、エリアを切り換えるだけで、登録したエリアの日時で記録できます。日付／時刻を設定しなおす必要がなく便利です。

1 自宅のエリアを設定する

- ［エリア設定］を選び、タッチします。
- はじめて設定するときは、左の画面が表示されていることを確認し、［エリア設定］をタッチします。
- ◀か▶をタッチして自宅エリアを選びます。［☀OFF］をタッチすると、サマータイム（1時間プラスされます）を設定できます。
- ［⮌］をタッチします。

2 訪問先のエリアを設定する

- ［✈訪問先］をタッチしたあと、［エリア設定］をタッチします。
- ◀か▶をタッチして訪問先エリアを選びます。
- 手順1と同じように、サマータイムも設定できます。
- ［↩］をタッチします。

3 訪問先のエリアに切り換える

- ［✈訪問先］をタッチしたあと、［↩］をタッチします。
- ▶ ［エリア設定］や撮影画面（p.183）に［✈］が表示されます。

［✈］の状態で日付／時刻を変える（p.22）と、［⌂自宅］の日時も自動的に変わります。

タッチ位置を調整する

タッチ操作で思うように項目やボタンを選択できないときは、タッチ画面調整を行います。正確に調整するために、必ず、ストラップについている留め具を使って調整してください。

- ［タッチ画面調整］を選び、タッチします。

- 画面に表示される ✣ を、ストラップについている留め具でタッチします（p.14）。
- 画面の表示にしたがって、左上、左下、右下、右上の順で、4回タッチします。

付属の留め具以外のとがったもの（鉛筆やペンなど）で操作しないでください。

撮影機能の設定を変える

モードスイッチを にしてPモードにし、メニューの［ ］タブで設定します（p.46）。

ここで説明する機能をPモード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.192～193）。

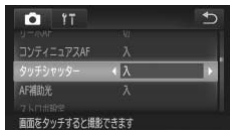
フォーカス設定を切り換える

通常は、シャッターボタンを押さなくても、カメラを向けた方向の被写体へ常にピントを合わせますが、シャッターボタンを半押ししたときだけ、ピントを合わせるようにすることができます。

- ［コンティニュアスAF］を選び、◀か▶をタッチして［切］を選びます。

入	シャッターボタンを半押しするまで常にピントを合わせ続けるので、とっさのシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。
切	通常はピント合わせを行わないため、消費電力を抑えることができます。

タッチシャッター機能を使う

画面をタッチして撮影する、タッチシャッター機能を使えるようにすることができます。

- ［タッチシャッター］を選び、◀か▶をタッチして［入］を選びます。
- p.27の手順2～3の操作で撮影します。

- タッチシャッター機能は、シャッターボタンを押したときと同じように動作しますが、次の機能は使えません。
  AFロック（p.97）、AEロック（p.99）、FEロック（p.99）
- ［ ］や［ ］に設定しても（p.91）、AFフレームモードが［顔優先］のときにタッチシャッター機能を使うと、［ ］に戻ります。
- ［タッチシャッター］が［入］のときは、［ ］モード（p.79）や［ ］（p.88）を選んでも1枚だけ撮影されます。

AF補助光（ランプ）を切る

暗いところでシャッターボタンを半押しすると、ピントを合わせるためにランプ（前面）が点灯します。このランプを点灯しないようにすることができます。

- ［AF補助光］を選び、◀か▶をタッチして［切］を選びます。

赤目緩和機能（ランプ）を切る

暗いところでのストロボ撮影では、人の目が赤く撮影されることを緩和するため、ランプ（前面）が点灯します。このランプを点灯しないようにすることができます。

- ［ストロボ設定］を選び、タッチします。
- 画面を上下方向にドラッグして［赤目緩和ランプ］を選び、◀か▶をタッチして［切］を選びます。

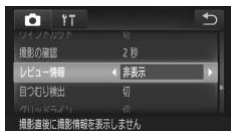
撮影直後の画像表示時間を変える

撮影直後に画像が表示される時間を変えられます。

- ［撮影の確認］を選び、◀か▶をタッチして内容を選びます。

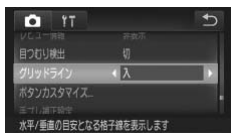
2～10秒	設定した時間だけ画像を表示します。
ホールド	シャッターボタンを半押しするまで画像を表示します。
切	画像は表示されません。

撮影直後の画面表示を変える

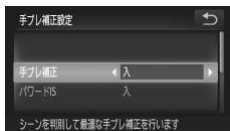
撮影直後の画像表示を変えることができます。

- [レビュー情報] を選び、◀か▶をタッチして内容を選びます。

非表示	撮影した画像だけを表示します。
詳細表示	詳細情報表示（p.186）になります。
ピント確認	AFフレームの位置を拡大表示して、ピントを確認することができます。操作方法は、「ピント位置を確認する（フォーカスチェッカー）」（p.118）と同じです。

グリッドラインを表示する

撮影のときに垂直、水平の目安になる格子線を画面上に表示することができます。

- [グリッドライン] を選び、◀か▶をタッチして［入］を選びます。

「グリッドライン」は画像に記録されません。

手ブレ補正の設定を変える

- ［手ブレ補正設定］を選び、タッチします。
- 画面を上下方向にドラッグして［手ブレ補正］を選び、◀か▶をタッチして内容を選びます。

入	撮影状況に最適な手ブレ補正に自動設定（マルチシーンIS）されます（p.185）。
撮影時＊	撮影される瞬間のみ手ブレを補正します。
切	手ブレ補正を切ります。

＊動画を撮影するときは、［入］の設定に変わります。

手ブレを補正しきれないときは、三脚などでカメラを固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、［切］にすることをおすすめします。

パワードIS機能を切る

パワードISは、動画を望遠にして撮影するときのゆっくりとした手ブレを補正します。ただし、歩きながら撮影するときや被写体の動きにあわせてカメラを大きく動かしたときなどは、思いどおりの効果が得られないことがあります。そのようなときは、パワードISを［切］に設定します。

- ［手ブレ補正設定］を選び、タッチします。
- 画面を上下方向にドラッグして［パワードIS］を選び、◀か▶をタッチして［切］を選びます。

［手ブレ補正］が［切］のときは、［パワードIS］の設定は反映されません。

アイコンの配置を変える（ボタンカスタマイズ）

撮影画面に表示されるアイコンを追加したり、配置を変えたりすることができます。

よく使う機能のアイコンを追加する

1 設定画面を表示する

- 撮影画面でいずれかのアイコンをタッチしたままにします。
- ［表示するボタンと位置を変えられます］が表示されたらいったん画面から指を離し、画面中央をタッチします。
- ▶ 左の設定画面が表示されます。

2 アイコンを追加する

- 手順1の画面中央にある表示させたいアイコンを、移動先にドラッグします。
- アイコンを配置できる位置に近づけるとオレンジ色の枠が表示され、画面から指を離すとアイコンが追加されます。また、移動先に別のアイコンがあるときは、ドラッグしたアイコンと入れ換わります。
- アイコンが灰色で表示されている位置には配置できません。

3 設定を終える

- ［終了］をタッチします。

画面右上に配置したときは、手順1でアイコンをタッチしたままにすると［ !› ］が表示され、設定画面を表示できません。右上以外のアイコンを選んでください。

アイコンの配置を変える

- p.166の手順1の設定画面で、配置を変えたいアイコンを移動先にドラッグします。
- ▶ 移動先に別のアイコンがあるときは、ドラッグしたアイコンと入れ換わります。

使わない機能のアイコンを非表示にする

- p.166の手順1の設定画面で、非表示にしたいアイコンを画面中央にドラッグし、表示された［ ］に重ねます。
- ドラッグしても［ ］が表示されないアイコンは、非表示にできません。

レイアウトを変える

アイコンのレイアウトを3種類から選べます。なお、追加したアイコンは非表示となり、初期状態のアイコンのみが配置されます。

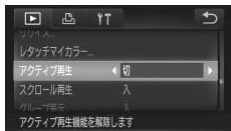
- p.166の手順1の設定画面で［おすすめから選択］をタッチします。
- アイコンの配置をタッチし、［OK］をタッチします。
- ［キャンセル］をクリックすると、もとの配置のまま設定画面に戻ります。

設定画面は、［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして［ ］タブの［ボタンカスタマイズ］をタッチすることでも表示できます。

再生機能の設定を変える

▶ボタンを押して、メニューの［▶］タブで設定します（p.46）。

アクティブ再生機能を使わない

カメラを指で軽くたたいたり、傾けたりして画像を切り換えるアクティブ再生機能（p.31、119）を動作しないようにできます。

- ［アクティブ再生］を選び、◀か▶をタッチして［切］を選びます。

自動回転機能を切る

縦位置で撮影した画像をカメラで見るときは、自動回転して縦位置で表示されます。この機能を使わないようにできます。

- ［縦横自動回転］を選び、◀か▶をタッチして［切］を選びます。

- ［切］にすると、画像の回転（p.132）はできません。また、すでに回転させていた画像も、もとの向きで表示されます。
- 連想再生（p.122）では、［切］に設定しても、縦位置で撮影された画像は縦位置で、撮影後に回転させた画像は回転した状態で表示されます。

再生したときに表示する画像を選ぶ

- ［再生開始位置］を選び、◀か▶をタッチして内容を選びます。

前回の画像	再生したときに、前回最後に再生した画像が表示されます。
最新の画像	再生したときに、撮影した最新画像が表示されます。

10

カメラを使うときに役立つ情報

別売アクセサリー（p.203）の使いかた、Eye-Fiカード（別売）の使いかた、「故障かな？と思ったら」のほか、画面表示の一覧やカメラの機能一覧を掲載しています。

テレビで見る

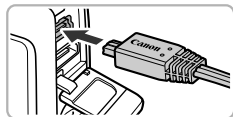
カメラとテレビをつなぐと、撮影した画像をテレビで見ることができます。

カメラで操作するときは、次の機能が使えます。

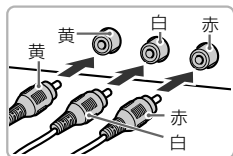
- 画像の切り換え
  画面を左右方向にドラッグするか、カメラを指で軽くたたきます（p.30、31）。
- 動画再生（p.35）
- 拡大（p.119）
  ズームレバーをQ側に押します。
- グループ再生（p.120）
- タッチアクション（p.123）
  連想再生、消去は呼び出せません。

なお、カメラの画面には何も表示されないため、テレビを見ながらカメラの画面を操作してください。

ステレオAVケーブル（別売）でつないで見る

ステレオAVケーブル AVC-DC400ST（別売）（p.204）でカメラとテレビをつないで、カメラを操作すると、撮影した画像をテレビで見ることができます。

1 カメラとテレビの電源を切る

2 カメラとテレビをつなぐ

- ふたを開き、ケーブルのプラグをカメラの端子にしっかりと差し込みます。
- ケーブルのプラグを、図のようにテレビの入力端子へしっかりと差し込みます。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えをケーブルでつないだ入力にする

4 カメラの電源を入れる

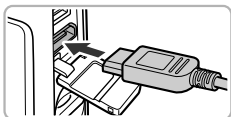
- ▶ボタンを押して電源を入れます。
- ▶ 画像がテレビに表示されます（カメラの画面には何も表示されません）。
- カメラの画面を操作します。
- 見終わったらカメラとテレビの電源を切ってから、ケーブルを抜きます。

? 画像がテレビに正しく表示されないときは？

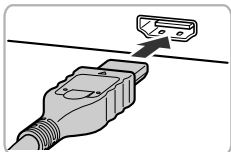
出力方式（NTSC/PAL）があわないと、画像が正しく表示されません。[FUNC.]、[MENU]の順にタッチして、[YT]タブの［ビデオ出力方式］で出力方式を変えてください（日本国内の出力方式は、「NTSC」です）。

HDMIケーブル（別売）でつないで見る

HDMIケーブル HTC-100（別売）（p.204）でカメラとHD対応テレビをつないで、カメラを操作すると、撮影した画像をテレビで見ることができます。

1 カメラとテレビの電源を切る

2 カメラとテレビをつなぐ

- ふたを開き、ケーブルのプラグをカメラの端子へしっかりと差し込みます。

- ケーブルのプラグを、図のようにテレビのHDMI入力端子へしっかりと差し込みます。

3 画像を表示する

- p.170の手順3～4の操作で画像を表示します。

付属のインターフェースケーブルやステレオ AV ケーブル（別売）（p.204）と、HDMIケーブル HTC-100は、カメラへ一緒に差し込めません。無理に差し込むと故障の原因になることがあります。

HD対応テレビにつないだときは、操作音は鳴りません。

テレビのリモコンで操作する

HDMI機器制御機能（HDMI CEC）対応のテレビとカメラをつなぐと、テレビのリモコンで画像の切り換えや、スライドショーなどの操作ができます。テレビによっては、テレビ側の設定が必要です。詳しくは、テレビの使用説明書を参照してください。

1 ［HDMI機器制御］を選ぶ

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［ƳƬ］タブの［HDMI機器制御］を選び、◀か▶をタッチして［入］を選びます。

2 テレビとカメラをつなぐ

- p.171の手順1～2の操作でテレビとカメラをつなぎます。

3 画像を表示する

- テレビの電源を入れ、カメラの［▶］ボタンを押します。
- ▶ 画像がテレビに表示されます（カメラの画面には何も表示されません）。

4 テレビのリモコンで操作する

- リモコンの◀か▶で画像を選びます。
- 決定ボタンを押すとテレビに操作パネルが表示されます。◀か▶で項目を選び、もう一度決定ボタンを押します。

テレビに表示される操作パネル一覧

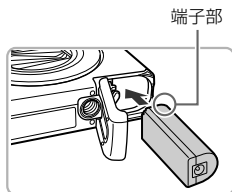
	戻る	メニューが消えます。
	グループ再生	ハイスピード連写で撮影された画像を表示します（グループ化された画像を選んでいるときのみ表示）。
▶	動画再生	動画を再生します（動画を選んでいるときのみ表示）。
	スライドショー	画像を自動的に再生します。再生中にリモコンの◀か▶を押すと画像を切り換えられます。
	インデックス表示	画像を一覧で表示します。

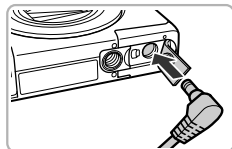
- ズームレバーを操作して表示を変えたときは、テレビのリモコンでの操作ができなくなります。カメラで1枚表示に戻してからリモコンで操作してください。
- HDMI機器制御機能（HDMI CEC）に対応したテレビであっても、正しく動作しないことがあります。

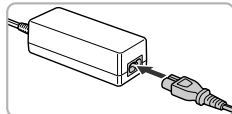
家庭用電源でカメラを使う

ACアダプターキット ACK-DC70（別売）を使うと、バッテリーの残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 カメラの電源を切る

2 カプラーを入れる

- p.18の手順1の操作でふたを開きます。
- カプラーを図の向きにして、p.18 の手順2のバッテリーを入れる方法と同じ操作でカプラーを入れます。
- p.18の手順3の操作でふたを閉めます。

3 プラグをカプラーにつなぐ

- カバーを開き、アダプターのプラグをカプラーの端子にしっかりと差し込みます。

4 電源コードを取り付ける

- 電源コードをアダプターに差し込み、プラグをコンセントに差し込みます。
- カメラの電源を入れると、カメラが使えます。
- 使い終わったら、カメラの電源を切ってからプラグをコンセントから抜いてください。

カメラの電源を入れたまま、プラグや電源コードを抜かないでください。撮影した画像が消えたり、カメラが故障することがあります。

Eye-Fiカードを使う

Eye-Fiカードを使うときは、その国や地域で使用が認められているか、必ず事前にご確認ください（p.17）。

セットアップしたEye-Fiカードをカメラに入れると、撮影した画像をワイヤレスでパソコンに自動転送したり、オンライン上のサービスにアップロードしたりできます。
画像の転送はEye-Fiカードの機能です。カードのセットアップ方法、使用方法、転送時の不具合などについては、カードの使用説明書を参照するかカードメーカーにお問いあわせください。

Eye-Fiカードの使用中は、次のことに注意してください。

- ［Eye-Fi通信］を［しない］に設定（p.176）しても、電波が発信されることがあります。病院や航空機内など電波の発信が禁止されている場所では、事前にEye-Fiカードを取り出しておいてください。
- 画像が転送できないときは、カードやパソコンの設定を確認してください。詳しくはカードの使用説明書を参照してください。
- 無線LANの接続状態によっては、画像の転送に時間がかかったり、転送が中断したりすることがあります。
- Eye-Fiカードは、通信機能があるため、熱くなることがあります。
- バッテリーの消耗が早くなります。
- カメラの動作が遅くなります。［Eye-Fi通信］を［しない］に設定すると解決することがあります。

Eye-Fiカードをカメラに入れると、撮影画面（情報表示時）や再生画面（簡易情報表示時）で通信状態を確認できます。

（灰色点灯）	未接続
（白点滅）	接続中
（白点灯）	転送待機
（アニメーション）	転送中
	中断
	Eye-Fiカード情報取得エラー（電源を入れなおしてください。繰り返し表示されるときは、カードの異常が考えられます。）

転送された画像には、［ ］が表示されます。

- 画像の転送中は、節電機能が働きません（p.50）。
- ［ ］モードを選んでいるときは、Eye-Fi通信が中断されます。ほかの撮影モードに変えるか、再生モードにすると再開されますが、［ ］モードで作成された動画は重複して転送されることがあります。

通信情報を確認する

接続先SSIDや通信状態を確認できます。

[通信情報一覧] を選ぶ

- [FUNC.]、[MENU] の順にタッチして、[𝐘𝐓] タブの [Eye-Fi設定] を選び、タッチします。
- [通信情報一覧] をタッチし、もう一度 [通信情報一覧] をタッチします。
- ▶ 通信情報一覧が表示されます。

Eye-Fi通信をしない

Eye-Fi通信をしない設定にできます。

[Eye-Fi通信] で [しない] を選ぶ

- [FUNC.]、[MENU] の順にタッチして、[𝐘𝐓] タブの [Eye-Fi設定] を選び、タッチします。
- [Eye-Fi通信] を選び、◀か▶をタッチして [しない] を選びます。

 [Eye-Fi設定] が表示されない？

Eye-Fiカードを入れていないときや、ライトプロテクトスイッチがあるEye-Fiカードのスイッチを「LOCK」側にして入れているときは表示されません。そのため、ライトプロテクトスイッチがあるEye-Fiカードのスイッチを「LOCK」側にして入れているときは、設定を変えることができませんので注意してください。

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、次の例を参考に確認してください。ただし、問題が解決しないときは、別紙の修理受付センターへご相談ください。

電源

電源ボタンを押してもカメラが動作しない

- 指定されたバッテリーで、残量があることを確認してください（p.16）。
- バッテリーが正しい向きで入っているか確認してください（p.18）。
- カード／バッテリー収納部ふたが閉じているか確認してください（p.18、19）。
- バッテリーの端子が汚れているとバッテリー性能が低下します。綿棒などで端子を拭き、バッテリーを数回入れなおしてください。

バッテリーの消耗が早い

- 低温下ではバッテリー性能が低下します。端子カバーをつけて、ポケットなどでバッテリーを温めてからお使いください。

レンズが出たままで収納されない

- 電源を入れたまま、カード収納部ふたやバッテリー収納部ふたを開けないでください。ふたを閉じたあと、電源を入れてからもう一度切ってください（p.18、19）。

テレビ表示

テレビに表示できない／画面が乱れる（p.171）

撮影

撮影できない

- 再生モードのとき（p.23）は、シャッターボタンを半押ししてください（p.25）。

暗い場所での画面表示がおかしい（p.44）

撮影中の画面表示がおかしい

次のときは、静止画には記録されませんが、動画には記録されます。注意してください。

- 蛍光灯やLEDなどの照明下で撮影すると、画面がちらついたり横帯が表示されたりすることがあります。

シャッターボタンを押したら、画面に［ϟ］が点滅表示されて撮影できない（p.29）

シャッターボタンを半押ししたときに、［ ］が表示される（p.52）

- ［手ブレ補正］を［入］にしてください（p.165）。
- ストロボを［ϟ］にしてください（p.83）。
- ISO感度を高くしてください（p.86）。
- 三脚などでカメラを固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.165）。

画像がボケて撮影される
- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから、撮影してください（p.25）。
- 撮影距離範囲内に被写体をおさめて撮影してください（p.198）。
- ［AF補助光］を［入］にしてください（p.163）。
- 意図しない機能（マクロ撮影など）が設定されていないか確認してください。
- フォーカスロック、AFロックで撮影してください（p.94、97）。

画像がブレて撮影される
- タッチシャッター機能を使って撮影するときは、撮影シーンによっては、画像がブレやすくなることがあります。カメラをしっかりと持って撮影してください。

シャッターボタンを半押ししても、AFフレームが表示されずピントが合わない
- 被写体の明暗差がある部分を画面中央にしてシャッターボタンを半押しするか、半押しを何度か繰り返すとAFフレームが表示され、ピントが合うことがあります。

被写体が暗すぎる
- ストロボを［⚡］にしてください（p.83）。
- 露出補正で明るさを補正してください（p.83）。
- i-コントラストで補正してください（p.87、137）。
- スポット測光またはAEロックで撮影してください（p.98、99）。

被写体が明るすぎる（白トビする）
- ストロボを［Ⓢ］にしてください（p.52）。
- 露出補正で明るさを補正してください（p.83）。
- スポット測光またはAEロックで撮影してください（p.98、99）。
- 被写体にあたっている照明を弱めてください。

ストロボが光ったのに暗い画像になる（p.29）
- ストロボ撮影に適した距離で撮影してください（p.83）。
- ISO感度を高くしてください（p.86）。

ストロボ撮影した画像の被写体が明るすぎる（白トビする）
- ストロボ撮影に適した距離で撮影してください（p.83）。
- ストロボを［Ⓢ］にしてください（p.52）。

ストロボ撮影時、画像に白い点などが写る
- 空気中のちりなどにストロボ光が反射しました。

画像が粗い感じになる
- ISO感度を低くして撮影してください（p.86）。
- 撮影モードによってはISO感度が高くなるため、粗い感じの画像になることがあります（p.64）。

目が赤く写る（p.101）

- ［赤目緩和ランプ］を［入］に設定してください（p.163）。ストロボ撮影のときは、ランプ（前面）（p.42）が点灯して、約1秒間は赤目現象を緩和するため撮影できません。また、写される人がランプを見ているときに効果があります。「室内を明るくする」、「写したい人に近づく」と効果が上がります。
- 赤目補正で補正してください（p.138）。

カードへの画像の記録時間が長い、または連続撮影速度が遅くなった

- カードをこのカメラで物理フォーマットしてください（p.155）。

撮影機能やFUNC.メニューの設定ができない

- 設定できる項目は撮影モードによって変わります。「撮影機能一覧」、「FUNC.メニュー一覧」、「撮影タブメニュー 一覧」（p.188～193）で確認してください。

動画撮影

正しい撮影時間が表示されない、または中断される

- カードをこのカメラで初期化するか、書き込み速度の速いカードを使ってください。撮影時間が正しく表示されないときも、カードには実際に撮影した時間の動画が撮影されています（p.24、34）。

画面に［ ❗ ］が表示され、撮影が自動的に終わった

カメラの内部メモリーが少なくなりました。次の方法を試してください。

- カードをこのカメラで物理フォーマットする（p.155）。
- 画質を変える（p.108）。
- 書き込み速度の速いカードを使う（p.108）。

被写体がゆがんで見える

- 撮影中に被写体がカメラの前を素早く横切ったときは、ゆがんで見えることがあります。これは故障ではありません。

再生

再生できない

- パソコンでファイル名やフォルダ構造を変えると再生できないことがあります。ファイル名やフォルダ構造については、「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

再生が中断する、または音声が途切れる

- このカメラで物理フォーマットしたカードを使ってください（p.155）。
- 動画を、読み込み速度の遅いカードにコピーして再生すると、再生が一瞬中断することがあります。
- パソコンで動画を再生するとき、パソコンの性能によっては、画像がフレーム（コマ）落ちしたり、音声が途切れたりすることがあります。

画面

思いどおりにタッチ操作ができない

- タッチパネルは圧力を感知するタイプのため、少し強めにタッチしたり、ストラップについている留め具を使うと切り換わりやすくなります（p.14）。
- タッチ位置の調整を行ってください（p.161）。

画面右上に［ !›］が表示される

- 指が画面の右上を触っています。画面から指を離してください。

パソコン

画像をパソコンに取り込めない

カメラとパソコンをケーブルでつないで取り込むときは、次の操作で画像の取り込み速度を遅くすることで、問題が解決できることがあります。

- カメラの電源をいったん切ります。シャッターボタンを全押ししたまま、ズームレバーを[♠]側に押した状態で▶ボタンを押します。続いて、ズームレバーを▦側に押します。表示された画面で［B］をタッチして選び、もう一度タッチします。

Eye-Fiカード

画像が転送できない（p.175）

画面に表示されるメッセージ一覧

画面にメッセージが表示されたときは、次のように対応してください。

カードがありません

- カードが正しい向きで入っていません。カードを正しい向きで入れます（p.19）。

カードがロックされています

- SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、SDXC メモリーカード、Eye-Fi カードのスイッチが「LOCK」側（書き込み禁止）になっています。スイッチを書き込みできる方へ切り換えます（p.19）。

記録できません

- カードが入っていない状態で撮影しました。撮影するときは、カードを正しい向きで入れます（p.19）。

カードが異常です（p.155）

- 初期化したカードを正しい向きで入れても同じ表示が出るときは、別紙の修理受付センターへご相談ください（p.19）。

カード残量が足りません

- カードの空き容量がないため、撮影（p.26、33、51、61、81、103）や編集（p.133～138）はできません。画像を消して（p.32、127）空き容量を作るか、空き容量のあるカードに交換します（p.19）。

タッチシャッターできません／タッチAFできません

- 指が画面の右上を触っています（p.180）。
- タッチAFができない撮影モードです（p.188）。

タッチAF解除されました

- タッチAFで選んだ被写体が認識できなくなりました（p.96）。

バッテリーを交換してください（p.18）

画像がありません

- カードに表示できる画像が入っていません。

保護されています（p.125）

認識できない画像です／互換性のないJPEGです／画像が大きすぎます／再生できません（AVI）／RAW

- 非対応の画像やデータが壊れている画像は表示できません。
- パソコンで加工したり、ファイル名を変えたりした画像や、このカメラ以外で撮影した画像は、表示できないことがあります。

拡大できない画像です／連想再生できない画像です／回転できない画像です／処理できない画像です／登録できない画像です／処理できません／指定できない画像です

- 非対応の画像は、拡大（p.119）、連想再生（p.122）、お気に入り設定（p.129）、カテゴリー分け（p.131）、回転（p.132）、編集（p.133～138）、印刷指定（p.147）、フォトブック指定（p.151）、起動画面への登録（p.156）はできません。
- パソコンで編集した画像やファイル名を変えた画像、このカメラ以外で撮影した画像は、拡大、連想再生、お気に入り設定、カテゴリー分け、回転、編集、印刷指定、フォトブック指定、起動画面への登録はできないことがあります。
- 動画は、拡大（p.119）、連想再生（p.122）、編集（p.133 ～ 138）、印刷指定（p.147）、フォトブック指定（p.151）、起動画面への登録（p.156）はできません。

指定枚数の上限を超えています

- 印刷指定（p.147）やフォトブック指定（p.151）の画像を998枚より多く指定しました。指定する画像を998枚以下にします。
- 印刷指定（p.147）やフォトブック指定（p.151）を正しく保存できませんでした。指定枚数を減らして、もう一度指定します。
- 保護（p.125）、消去（p.127）、お気に入り（p.129）、マイカテゴリー（p.131）、印刷指定（p.147）、フォトブック指定（p.151）で、501枚以上の画像を指定しようとしました。

通信エラー

- カードに大量の画像（1000 枚程度）があるため、パソコンに画像を取り込んだり印刷したりできません。パソコンへ取り込むときは、カードリーダー（市販品）を使います。印刷するときは、プリンターのカードスロットにカードを差して印刷します。

ファイル名が作成できません

- カメラが作成しようとしたフォルダや画像と同じファイル名があるとき、画像番号が最大値になっているときは、フォルダや画像が作成できません。[ƳƬ] メニューで［画像番号］を［オートリセット］に変えるか（p.157）、カードを初期化します（p.24）。

レンズエラーを検知しました

- レンズ動作中にレンズを押さえたり、ホコリや砂ボコリの立つ場所などでカメラを使うと表示されることがあります。
- 頻繁に表示されるときは故障が考えられますので、別紙の修理受付センターへご相談ください。

カメラがエラーを検知しました（エラー番号）

- 撮影直後に表示されたときは、撮影されていないことがあります。再生して画像を確認してください。
- 頻繁に表示されるときは故障が考えられますので、エラー番号（Exx）を控えて、別紙の修理受付センターへご相談ください。

ファイルエラー

- パソコンで加工したり、このカメラ以外で撮影した画像は印刷できないことがあります。

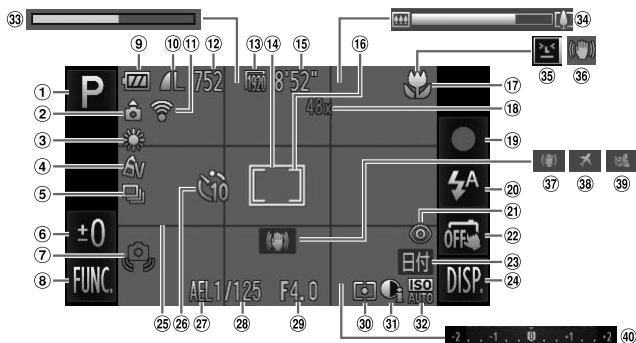
印刷エラー

- 用紙サイズの設定を確認してください。正しく設定されていてもこのエラーが表示されるときは、プリンターの電源を入れ直して、もう一度設定してください。

インク吸収体が満杯です

- パーソナル機器修理受付センターまたはお近くの修理受付窓口にインク吸収体の交換を依頼してください。

画面の表示内容一覧

撮影時（情報表示あり）

① 撮影モード（p.188）、シーンアイコン（p.184）
② カメラ位置*
③ ホワイトバランス（p.84）
④ マイカラー（p.89）
⑤ ドライブモード（p.88）
⑥ 露出補正量（p.83）
⑦ 手ブレ警告（p.29）
⑧ FUNC.（ファンクション）（p.45）
⑨ バッテリー残量表示（p.16）
⑩ 圧縮率（画質）（p.58）／記録画素数（p.58、108）
⑪ Eye-Fi通信状態（p.175）
⑫ 撮影可能枚数（p.59）
⑬ 画質（動画）（p.108）
⑭ AFフレーム（p.93）
⑮ 撮影可能時間（p.108）
⑯ スポット測光枠（p.98）
⑰ フォーカスゾーン（p.91）、AFロック（p.97）
⑱ デジタルズーム倍率（p.53）、デジタルテレコンバーター（p.92）
⑲ 動画撮影（p.33）
⑳ ストロボモード（p.52、83）
㉑ 赤目自動補正（p.101）
㉒ タッチシャッター（p.27、162）
㉓ 日付写し込み（p.54）
㉔ DISP.（ディスプレイ）（p.43）
㉕ グリッドライン（p.164）
㉖ セルフタイマー（p.55、56）
㉗ AEロック（p.99）、FEロック（p.99）
㉘ シャッタースピード
㉙ 絞り数値
㉚ 測光方式（p.98）
㉛ i-コントラスト（p.87）
㉜ ISO感度（p.86）
㉝ ハイスピード動画撮影時間（p.106）
㉞ ズームバー（p.26）
㉟ 目つむり検出（p.102）
㊱ 手ブレ補正（p.185）
㊲ 手ブレ補正（p.165）
㊳ エリア設定（p.159）
㊴ ウィンドカット（p.107）
㊵ 露出補正バー（p.83）

＊ ：通常、 ：カメラを縦位置に構えたとき
撮影時にカメラの向きを検知して最適な撮影ができるよう制御され、再生時には、カメラが縦向きでも横向きでも、画像が自動的に回転して正位置で見ることができます。
ただし、カメラを真上や真下に向けると正しく検出できないことがあります。

シーンのアイコン

AUTO モードでは、カメラが判別したシーンを示すアイコンが表示され、ピント合わせや被写体の明るさ、色あいが最適になるよう自動設定されます。

被写体 背景	人			人以外の被写体			背景色
		動いているとき	顔の一部が暗いとき		動いているとき	近いとき	
明るい				AUTO			灰色
逆光			–				
青空を含む				AUTO			水色
逆光			–				
夕景	–					–	オレンジ色
スポットライト							紺色
暗い				AUTO			
三脚使用時	*	–		*	–		

＊ 撮影シーンが暗いときに、三脚などでカメラを固定すると表示されます。

手ブレ補正アイコン

撮影状況に最適な手ブレ補正に自動設定（マルチシーンIS）されます。また、AUTOモードでは以下のアイコンが表示されます。

アイコン	説明	アイコン	説明
((✋))	静止画を撮影するときの手ブレを補正	((✋D))	動画を撮影するときの手ブレを補正し、歩きながら撮影するときなどの大きな手ブレも補正（ダイナミックモード）
((→))	静止画を流し撮りで撮るときのブレを補正*	((✋P))	動画を望遠にして撮影するときなどの、ゆっくりとした手ブレを補正（パワードIS）
((🌷))	マクロ撮影するときの手ブレを補正（ハイブリッドIS）	((🎥))	三脚などでカメラを固定したときは、手ブレ補正が不要なため停止

* 動く被写体をカメラで追いながら撮影（流し撮り）するときに表示されます。左右方向に動く被写体を追うと、上下方向の手ブレだけが補正されて、左右方向の補正は停止します。また、上下方向に動く被写体を追うと、左右方向の手ブレだけが補正されます。

［手ブレ補正］を［切］に設定（p.165）すると、手ブレが補正されなくなり、アイコンも表示されなくなります。

再生時（詳細情報表示）

① インデックス表示（p.112）
② マイカテゴリー（p.131）
③ 動画（p.35）、ハイスピード連写（p.79）、撮影モード（p.188）
④ ISO感度（p.86）、倍速（p.106）
⑤ ホワイトバランス（p.84）
⑥ ヒストグラム（p.44）
⑦ 記録画素数（p.58、108）、MOV（動画）
⑧ FUNC.（ファンクション）（p.45）
⑨ 印刷予約（p.147）
⑩ Eye-Fi転送済み画像（p.175）
⑪ バッテリー残量表示（p.16）
⑫ 測光方式（p.98）
⑬ フォルダ番号－画像番号（p.157）
⑭ 再生画像番号／総画像数
⑮ 情報非表示（p.43）
⑯ シャッタースピード（静止画）、画質／フレーム数（動画）（p.107）
⑰ 絞り数値
⑱ 露出補正量（p.83）
⑲ ストロボ発光（p.83）
⑳ フォーカスゾーン（p.91）
㉑ i-コントラスト（p.87、137）
㉒ ファイルサイズ（p.59、108）
㉓ DISP.（ディスプレイ）（p.43）
㉔ 圧縮率（画質）（p.58）
㉕ グループ再生（p.120）、画像編集（p.133～138）
㉖ 保護（p.125）
㉗ お気に入り（p.129）
㉘ マイカラー（p.89、136）
㉙ 赤目補正（p.138）
㉚ 撮影日時（p.21）
㉛ 静止画：記録画素数（p.59）
動画：撮影時間（p.108）

「動画を見る」（p.35）で表示される動画操作パネル一覧

↶	終了
🔊	タッチすると音量パネルが表示され、▲か▼をタッチすると音量を変えられます。音量が0のときは［🔈］が表示されます。
▶	再生
⏮	前スキップ*（タッチしたままにすると連続してスキップ）
◀∥	フレーム戻し（タッチしたままにするとスロー戻し）
∥▶	フレーム送り（タッチしたままにするとスロー送り）
⏭	次スキップ*（タッチしたままにすると連続してスキップ）
✂	編集（p.109）

* 約4秒前または後のフレームを表示

- 動画再生中にカメラを指で軽くたたく（p.31）と、前スキップ、次スキップができます（アクティブ再生）。
- スクロールバーをタッチしたり、左右方向にドラッグしたりすると、表示するフレームを変えられます。

機能／メニュー 一覧

撮影機能一覧

撮影モード / 機能		AUTO	P						
露出補正（p.83）		－	○	○	○	○	○	○	○
ストロボ（p.52、83）	A	○	○	○	○	○	○	○	○
		－	○	○	○	○	○	○	○
		＊1	○	○	－	－	－	－	－
		○	○	○	○	○	○	○	○
タッチシャッター（p.27）	/	○	○	○	○	○	－	－	－
AE / FEロック＊4（p.99）		－	○	○	－	－	－	－	－
AFロック（p.97）		－	○	○	－	－	－	－	－
タッチAF（p.96）		○	○	－	○	○	＊5	＊5	＊5
画面の表示（p.43）	情報表示あり / なし	○	○	○	○	○	○	○	○

＊1 選択不可。ただし状況に応じて［］
＊2 選択不可。ただし発光時は［］
＊3 撮影のみ可。被写体の指定は不可
＊4 FEロックは［］では不可
＊5 顔が検出されたときのみ可能

○	−	○	○	○	○	○	○	○	−	−	○	○	○	○	−	−	−
−	−	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−	−	−
−	−	−	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	＊2	−	−
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−
○	＊3	＊3	○	＊3	−	○	○	○	○	○	○	○	○	＊3	○	○	○
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	○	−	−
○	−	−	○	−	−	−	○	○	○	○	○	○	○	−	○	−	−
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○選択可能または自動設定　−選択不可

FUNC.メニュー 一覧

機能	撮影モード	AUTO	P						
測光方式（p.98）		○	○	○	○	○	○	○	○
		–	○	○	–	–	–	–	–
マイカラー（p.89）	OFF	○	○	○	○	○	○	○	○
	V N Se ＊1 BW ＊1 P L D B G R C ＊2	–	○	○	–	–	○	○	○
ホワイトバランス（p.84）	AWB	○	○	○	○	○	○	○	○
		–	○	○	–	–	○	○	○
ISO感度（p.86）	ISO AUTO	○	○	○	○	○	○	○	○
	ISO 100 ISO 200 ISO 400 ISO 800 ISO 1600 ISO 3200	–	○	○	–	–	–	–	–
露出補正（p.83）		–	○	○	○	○	○	○	○
セルフタイマー（p.55、56）	OFF	○	○	○	○	○	○	○	○
	10 2 C	○	○	○	○	○	–	–	–
セルフタイマー設定（p.56）	時間＊3	○	○	○	○	○	–	–	–
	枚数＊4	○	○	–	○	○	–	–	–
フォーカスゾーン（p.91）		○	○	○	○	○	○	○	○
		–	○	○	○	–	–	–	–
ドライブモード（p.88）		○	○	○	○	○	○	○	○
		–	○	–	○	○	–	–	–
	AF ＊5	–	○	–	○	○	–	–	–
静止画アスペクト比（p.57）	16:9 3:2 4:3 1:1	○	○	–	○	○	○	○	○
記録画素数（p.58）	L	○	○	○	○	○	○	○	○
	M1 M2	○	○	○	○	○	○	○	○
	M	–	–	–	–	–	–	–	–
	S	○	○	○	○	○	○	○	○
圧縮率（p.58）		○	○	○	○	○	○	○	○
動画の画質（p.106、108）	1920	○	○	○	○	○	○	○	○
	1280	○	○	○	○	○	○	○	○
	640	○	○	○	○	○	○	○	○
	240 120	–	–	–	–	–	–	–	–

＊1 ホワイトバランスは選択不可　＊2 コントラスト、シャープネス、色の濃さ、赤・緑・青・肌色を5段設定
＊3 枚数設定不可のモードでは0秒設定不可　＊4 枚数設定不可のモードでは1枚固定

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
○	–	○	○	○	○	○	○	○	–	–	○	○	○	○	–	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	○	○
–	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–	–
–	–	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–	–
–	–	–	–	–	＊6	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
–	–	○	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	○	○	○
○	○	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
○	○	○	○	○	＊7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–
○	○	○	○	○	＊7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○

＊5 AFロック時、［ ］時は［ ］ ＊6［4:3］［16:9］のみ選択可
＊7 縦横比の設定に連動して自動設定（p.106）

○選択可能または自動設定 ―選択不可

撮影タブメニュー 一覧

機能 ＼ 撮影モード			AUTO	P						
AFフレーム（p.93）	顔優先＊1		○	○	○	○	○	○	○	○
	一点		–	○	○	○	○	–	–	–
AFフレームサイズ＊2（p.94）	標準		–	○	○	○	○	–	–	–
	小		–	○	○	○	○	–	–	–
デジタルズーム（p.53）	入		○	○	○	○	○	○	○	○
	切		○	○	○	○	○	○	○	○
	テレコン1.5x / テレコン2.0x		–	○	–	–	–	–	–	–
ピント位置拡大（p.95）	入		○	○	–	○	–	○	○	○
	切		○	○	○	○	○	○	○	○
サーボAF（p.97）	入		–	○	–	○	○	–	–	–
	切＊3		○	○	○	○	–	○	○	○
コンティニュアスAF（p.162）	入		○	○	○	○	–	○	○	○
	切		–	○	–	○	○	–	–	–
タッチシャッター（p.162）	入 / 切		○	○	○	○	○	–	–	–
AF補助光（p.163）	入		○	○	○	○	○	○	○	○
	切		○	○	○	○	○	–	○	○
ストロボ設定（p.101、163）	赤目自動補正	入	○	○	○	○	○	○	○	○
		切	○	○	○	○	○	○	○	○
	赤目緩和ランプ	入 / 切	○	○	○	○	○	○	○	○
i-コントラスト（p.87）	自動		○	○	○	–	–	–	–	–
	切		–	○	○	○	○	○	○	○
ウィンドカット（p.107）	入 / 切		○	○	○	○	○	○	○	○
撮影の確認（p.163）	切 / 2～10秒 / ホールド		○	○	○	○	○	○	○	○
レビュー情報（p.164）	非表示 / 詳細表示 / ピント確認		○	○	○	○	○	○	○	○
目つむり検出（p.102）	入		○	○	○	○	○	○	○	○
	切		○	○	○	○	○	○	○	○
グリッドライン（p.164）	入 / 切		○	○	○	○	○	○	○	○
ボタンカスタマイズ（p.166）			○	○	○	○	○	○	○	○
手ブレ補正設定（p.165）	手ブレ補正	切	○	○	○	○	○	○	○	○
		入	○	○	○	○	○	○	○	○
		撮影時	–	○	○	○	○	○	○	○
	パワードIS	入	○	○	○	○	○	○	○	○
		切	○	○	○	○	○	○	○	○
日付写し込み（p.54）	切		○	○	○	○	○	○	○	○
	日付のみ / 日付+時刻		○	○	○	○	○	○	○	○

＊1 顔が検出されないときの動作は撮影モードによって異なる ＊2 AFフレームで［一点］選択時に可
＊3 AUTOモードでは動きを検出したときは［入］ ＊4 撮影のみ可。被写体の指定は不可

○	○	○	○	−	−	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○	○
○	−	−	○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	−	−	○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	−	−	○	−	−	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○	○
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	○	○	○	○	○	○	−
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
○	○	−	○	−	−	−	○	○	○	○	○	○	○	−	○	−	−
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
−	−	−	○	−	−	−	○	○	○	○	○	○	○	−	−	−	−
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○	○
−	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−
○	＊4	＊4	○	＊4	−	○	○	○	○	○	○	○	○	＊4	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
−	−	−	○	−	−	−	−	−	−	−	○	○	○	−	○	−	−
−	−	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	−	−
−	−	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	−	−
○	○	−	○	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
−	−	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−
−	−	−	○	−	−	−	−	○	○	○	○	○	○	−	−	−	−
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	○	○	○	○	○	−	−

○選択可能または自動設定　—選択不可

設定タブメニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
消音	する / しない*	p.48
音量	各種操作音を5段階に設定	p.48
音の選択	各種操作音の選択	p.154
機能ガイド	入* / 切	p.154
液晶の明るさ	5段階で設定	p.47
起動画面	起動画面の選択と登録	p.156
配色設定	オレンジ* / ブルーグレー / カーキ / ピンク	p.157
カードの初期化	記録内容を初期化して消去	p.24、155
画像番号	通し番号* / オートリセット	p.157
フォルダ作成	毎月* / 毎日	p.158
レンズ収納時間	1分* / 0秒	p.158
節電	オートパワーオフ：入* / 切 ディスプレイオフ：10 – 30秒 / 1* – 3分	p.50、158、159
エリア設定	自宅* / 訪問先	p.159
日付 / 時刻	日付 / 時刻の設定	p.22
ビデオ出力方式	NTSC* / PAL	p.171
HDMI機器制御	入 / 切*	p.172
タッチ画面調整	タッチ位置の調整	p.161
Eye-Fi設定	Eye-Fi通信の設定（Eye-Fiカード挿入時のみ表示）	p.175
言語	表示言語を選択	p.23
カメラ設定初期化	カメラの設定を初期状態に戻す	p.49

* 初期設定

▶ 再生タブメニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
スライドショー	画像の自動再生	p.116
消去	画像の消去（画像指定／全画像）	p.127
保護	画像の保護（画像指定／全画像）	p.125
回転	画像の縦横回転	p.132
お気に入り	お気に入りの登録／解除	p.129
マイカテゴリー	画像の分類	p.131
フォトブック指定	フォトブック印刷する画像を指定／解除	p.151
i-コントラスト	静止画の暗い部分やコントラストを補正	p.137
赤目補正	静止画の赤目部分を補正	p.138
トリミング	静止画の切り抜き	p.134
リサイズ	静止画を小さくして保存	p.133
レタッチマイカラー	静止画の色調を変える	p.136
アクティブ再生	入* / 切	p.168
スクロール再生	入* / 切	p.113
グループ表示	入* / 切	p.121
縦横自動回転	入* / 切	p.168
再生開始位置	前回の画像* / 最新の画像	p.168
再生効果	フェード* / スライド1 / スライド2 / 切	p.123
タッチアクション設定	ドラッグ操作に再生機能を登録	p.124

* 初期設定

印刷タブメニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
印刷	印刷画面を表示（プリンター接続時）	—
印刷する画像を指定	印刷する画像を1枚ずつ指定	p.149
すべての画像を指定	すべての画像を印刷する画像に指定	p.150
すべての指定を解除	すべての印刷指定を解除	p.150
印刷の設定	印刷のスタイルを設定	p.148

再生モードのFUNC.メニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
回転	表示している画像の回転	p.132
印刷予約	表示している静止画の印刷予約、解除（プリンター接続時は［印刷］）	p.147
保護	表示している画像の保護、解除	p.125
お気に入り	表示している画像のお気に入り設定、解除	p.129
消去	表示している画像の消去	p.32
ムービーダイジェスト再生	ムービーダイジェストモードで作成された動画を再生	p.114
連想再生	連想再生の開始	p.122
絞り込み再生	表示する画像の絞り込み、解除	p.115
スライドショー	画像の自動再生	p.116
マイカテゴリー	画像の分類	p.131

日ごろの取り扱いについて

- カメラは精密機器です。落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- カメラを磁石やモーターなどの、強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像が消えたりすることがあります。
- カメラや画面に水滴や汚れがついたときは、眼鏡拭きなどのやわらかい布で拭き取ってください。ただし、強くこすったり、押したりしないでください。
- 有機溶剤を含むクリーナーなどでは、絶対にカメラや画面を拭かないでください。
- レンズにゴミがついているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。汚れがひどいときは、別紙の修理受付センターにご相談ください。
- カメラを寒いところから急に暑いところへ移すと、カメラに結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから暑いところへ移すときは結露の発生を防ぐため、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因となりますのでカメラを使わないでください。バッテリー、カードをカメラから取り出し、水滴が消えてから、カメラを使ってください。

主な仕様

撮像素子
　カメラ部有効画素数......................約1210万画素

撮影レンズ
　焦点距離 .... 5.0 (W) – 60.0 (T) mm
（35mmフィルム換算：28 (W) – 336 (T) mm）
　ズーム倍率 12倍
　撮影距離 .... 1 cm – ∞ (W)、1 m – ∞ (T)
・マクロ時は1 – 50 cm (W)
　防振機構（IS）..............................レンズシフト式

映像エンジン .... DIGIC 4

液晶モニター
　形式 .... TFTカラー（広視野角タイプ）
　画面サイズ 3.2型
　有効画素数......................................約46.1万ドット
　アスペクト比 16:9
　機能 ....タッチパネル
輝度調節（5段階）

フォーカス
　制御方式...オートフォーカス：シングル（オート時はコンティニュアス）/ コンティニュアス、サーボAF・サーボAE、タッチAF
　AFフレーム ....顔優先 / 一点

測光方式...評価 / 中央部重点平均 / スポット

露出補正（静止画）/
露出シフト（動画）............................±2段（1/3段ステップ）

ISO感度
（標準出力感度・推奨露光指数）.......オート、ISO 100/200/400/800/1600/3200（撮影モード「P」時）

ホワイトバランス..............................オート / 太陽光 / くもり / 電球 / 蛍光灯 / 蛍光灯H / マニュアル

シャッタースピード .... 1 – 1/4000秒
15 – 1/4000秒（すべての撮影モードを合わせたシャッタースピード範囲）

絞り
　方式 ....二枚羽根絞り
　F値....................................... F3.4 – F6.3 (W)、F5.9 – F10.0 (T)

ストロボ
　発光モード.......................................オート / 常時発光 / スローシンクロ / 発光禁止
　調光範囲 .... 30 cm – 3.1 m (W)、1.0 – 1.7 m (T)

撮影モード..オート*[1]、P、ムービーダイジェスト、ポートレート、キッズ&ペット、オートシャッター*[2]、ハイスピード連写、ベストセレクト連写、手持ち夜景、ローライト、魚眼風、ジオラマ風、トイカメラ風、モノクロ、極彩色、オールドポスター、ワンポイントカラー、スイッチカラー、ビーチ、新緑/紅葉、スノー、打上げ花火、長秒時撮影、iFrame動画、ハイスピード動画
*1 撮影シーンを自動的に判別（こだわりオート）
*2 スマイル、ウインクセルフタイマー、顔セルフタイマー

デジタルズーム..................................静止画/動画：約4.0倍（光学 x デジタル：最大約48倍）
セーフティズーム、デジタルテレコンバーター

連続撮影
　モード切り換え.............................連続撮影 / AF連続撮影
　速度...約3.3枚/秒（撮影モード「P」時）
約7.8枚/秒（撮影モード「ハイスピード連写」時）

撮影枚数（CIPA準拠）......................約170枚

記録媒体 ....SDメモリーカード / SDHCメモリーカード / SDXCメモリーカード

ファイルフォーマット ....DCF準拠、DPOF対応（Version 1.1）

データタイプ
　静止画...................................Exif 2.3（JPEG）
　動画......................................MOV（画像：H.264、音声：リニアPCM（ステレオ））

記録画素数
　静止画...【16:9】
ラージ：4000 x 2248 / ミドル1：2816 x 1584 / ミドル2：1920 x 1080 / スモール：640 x 360
【3:2】
ラージ：4000 x 2664 / ミドル1：2816 x 1880 / ミドル2：1600 x 1064 / スモール：640 x 424
【4:3】
ラージ：4000 x 3000 / ミドル1：2816 x 2112 / ミドル2：1600 x 1200 / スモール：640 x 480
【1:1】
ラージ：2992 x 2992 / ミドル1：2112 x 2112 / ミドル2：1200 x 1200 / スモール：480 x 480

動画	【iFrame動画】 1280 x 720（30 fps＊1） 【ハイスピード動画】 640 x 480（撮影時は120 fps＊2、再生時は30 fps＊1）/ 320 x 240（撮影時は240 fps＊3、再生時は30 fps＊1） 【ジオラマ風】 1280 x 720＊4 / 640 x 480＊4 【上記以外】 1920 x 1080（24 fps＊5）/ 1280 x 720（30 fps＊1）/ 640 x 480（30 fps＊1） ＊1 実際のフレームレートは29.97 fps ＊2 実際のフレームレートは119.88 fps ＊3 実際のフレームレートは239.76 fps ＊4 撮影時は6 fps / 3 fps / 1.5 fps、再生時は30 fps＊1 ＊5 実際のフレームレートは23.976 fps
インターフェース	Hi-Speed USB HDMI出力 アナログ音声出力（ステレオ） アナログ映像出力（NTSC/PAL）
ダイレクトプリント規格	PictBridge
電源	バッテリーパック NB-9L コンパクトパワーアダプター CA-DC10 （ACアダプターキット ACK-DC70に付属）
大きさ（CIPA準拠）	99.0 x 58.9 x 21.9 mm
質量（CIPA準拠）	約206 g（電池・メモリーカード含む） 約183 g（本体のみ）

バッテリーパック NB-9L

形式	リチウムイオン充電池
公称電圧	DC 3.5 V
公称容量	870 mAh
充放電回数	約300回
使用温度	0 – 40℃
大きさ	14.6 x 43.1 x 15.3 mm
質量	約21 g

バッテリーチャージャー CB-2LB

定格入力	AC 100 V – 240 V（50/60 Hz） 8.5 VA（100 V）– 12 VA（240 V）、0.085 A（100 V）－ 0.05 A（240 V）
定格出力	DC 4.2 V、0.7 A
充電時間	約1時間50分（NB-9L充電時）
充電表示	充電中：オレンジ色点灯、充電完了：緑色点灯（2灯式）
使用温度	0 – 40℃
大きさ	59.0 x 82.0 x 24.5 mm
質量	約73 g

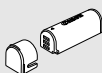
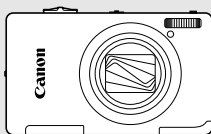
- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および、外観の一部を予告なく変更することがあります。

注意
指定外のバッテリーを使うと、爆発などの危険があります。使用済みのバッテリーは、各自治体のルールにしたがって処分してください。

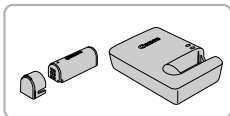
Li-ion

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。
  詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

接続マップ

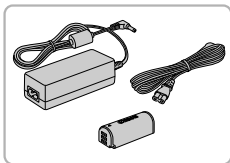
付属品
リストストラップ WS-DC10
バッテリーパック NB-9L（端子カバーつき）＊
バッテリーチャージャー CB-2LB＊
DIGITAL CAMERA Solution Disk
インターフェースケーブル IFC-400PCU＊
＊別売りも用意されています。
メモリーカード
カードリーダー
Windows/ Macintosh
キヤノン製PictBridge対応プリンター
ステレオAVケーブル AVC-DC400ST
テレビ
HDMIケーブル HTC-100

別売アクセサリー

必要に応じてお買い求めの上、ご利用ください。なお、アクセサリーは、諸事情により予告なく販売を終了することがあります。また、地域によってはお取り扱いがないことがあります。

電源

バッテリーパック NB-9L

- 充電式のリチウムイオン電池です。

バッテリーチャージャー CB-2LB

- バッテリーパック NB-9L用の充電器です。

ACアダプターキット ACK-DC70

- 家庭用電源でカメラを使えます。カメラを長時間連続して使うときや、プリンターやパソコンとつなぐときには、このACアダプターキットをお使いになることをおすすめします（カメラ内のバッテリーは充電できません）。

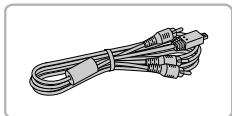
海外での使用について

バッテリーチャージャーやACアダプターキットは、AC 100 – 240 V 50/60 Hzの地域で使えます。
プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。なお、海外旅行用の電子式変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

ストロボ

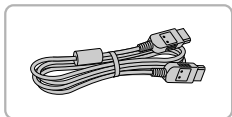
ハイパワーフラッシュ HF-DC2

- 被写体が遠すぎて内蔵ストロボの光が届かないときに使う外付けストロボです。なお、ハイパワーフラッシュ HF-DC1もお使いになれます。

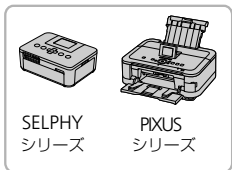
その他

ソフトケース IXC-460

- カメラをキズやホコリから守ります。

ステレオAVケーブル AVC-DC400ST

- テレビを使って画像を撮影したり見たりすることができます。

HDMIケーブル HTC-100

- カメラとハイビジョンテレビの HDMI 端子をつなぐケーブルです。

プリンター

SELPHY
シリーズ
PIXUS
シリーズ

キヤノン製PictBridge対応プリンター

- キヤノン製の PictBridge 対応プリンターをつなぐと、パソコンを使わずに、撮影した画像を印刷できます。
  製品の詳細については、ホームページやカタログでご確認いただくか、お客様相談センターへお問いあわせください。

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組みあわせてお使いになった場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

索引

【さ】

【た】

【な】

【は】

【ま】

【ら】

【わ】

アフターサービス期間について

本製品のアフターサービス期間は、製品の製造打ち切り後5年間です。
なお、弊社の判断によりアフターサービスとして同一機種または同程度の仕様の製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。

妨害電波自主規制について

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。カメラユーザーガイド（本書）にしたがって正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

適正な動作のために、キヤノン純正の専用アクセサリーと組みあわせてお使いいただくことを推奨いたします。

商標、ライセンスについて

- DCFは、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- SDXCロゴはSD-3C, LLC.の商標です。
- 本機器は、Microsoftからライセンスされたexfat技術を搭載しています。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing,LLCの商標または登録商標です。
- iFrameロゴおよびiFrameシンボルはApple Inc.の商標です。
- This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard.

  ＊規定により英語で表記しています。

このガイドについて

- 内容の一部または全部を無断で転載することは、禁止されています。
- 内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
- イラストや画面表示は、実際と一部異なることがあります。
- このカメラを運用した結果については、上記にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。

Canon

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター　050-555-90005

受付時間：平日 9：00～20：00／土・日・祝日 10：00～17：00
（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

※海外からご利用の方、または 050 からはじまる IP 電話番号をご利用いただけない方は、043-211-9630をご利用ください。

※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CDP-J455-010